

国際ロータリー第2510地区
2008～2009年度

ガバナー月信

No.13
完

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510
2008-2009
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

国際ロータリー第2510地区
2008～2009年度 ガバナー 矢橋 温郎 HARUO YAHASHI

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F
TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512 e-mail:rid2510@nifty.com
ホームページ: <http://www.ri2510.gr.jp>





R国際協議会(カルフォルニア、サンディエゴ)にて

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510

目次

CONTENTS

- 1 ————— ガバナーメッセージ
- 2 ————— 地区ガバナー補佐 退任のあいさつ
- 6 ————— 地区委員長一年間の足跡
- 15 ————— 新入会員のご紹介
- 16 ————— 私の“Rotary Notes”
我々はどこへ行くのか
- 18 ————— ガバナー補佐レポート
第10グループ クラブ紹介
- 20 ————— 第100回国際ロータリー年次大会参加記
- 21 ————— 第1グループIM・深川IRC創立50周年記念式典報告
- 22 ————— 羽幌ロータリークラブ創立30周年記念式典・祝賀会
- 23 ————— 地区委員会報告／国際奉仕委員会ニュース
- 24 ————— ロータリー財団寄付／米山記念奨学会寄付
- 25 ————— 出席率・会員数



ガバナーメッセージ

気がついたら、終わっていました

国際ロータリー第2510地区
ガバナー 矢橋 温郎
(札幌西RC)

7月1日、新旧ガバナーが東京に集まりました。これでガバナージャケットを脱ぐことができます。

ガバナー在任中、ロータリー関係行事にはすべて、このジャケットを羽織って出席しました。公式訪問はもちろん、周年式典、IM、奨学生の面接にも。他地区の大会や東京での研修でも着用しました。春夏秋冬1着のジャケットを着通すなんて、学生時代の制服以来です。大人になったら、いろんなデザインのスーツを楽しもうと、勉強・下積みに励んできました。まさか行き着く先が1着のジャケットだったとは。ガバナーはネクタイもお揃いです。まさに制服。あちこちで買った珍しい柄のネクタイも、この1年間は締める機会が殆どありませんでした。

ガバナージャケットを着ることもなくなるのかと思うと、卒業したときの制服への郷愁を思い出します。寝食を共にする、とは人間に対しての言い回しですが、このジャケットはロータリーを共にした相棒といえます。公式訪問にはガバナー補佐、何かの行事には代表幹事など、行動を共にする相方はその都度異なります。しかし常に一緒だったのは、このジャケットだけです。弁当の醤油染みから、挨拶でかいた冷や汗・脂汗まで、このジャケットに染み込んだ染み一つひとつに、思い出があります。染みがいわば、勲章のようなものです。つくづく紺色のジャケットでよかった。これがもっと明るい色だったら、勲章などとしゃれ込んでいる場合ではなく、クリーニングで落とせるか気を使わねばならないところでした。

ジャケット着用時、ガバナー挨拶が無いことはまずありません。公式訪問の時期はほぼ毎日、喋ってました。私が喋っていたのか、ジャケットが喋っていたのか。クローゼットに納めたジャケットは多分、もう着る機会はありません。吊るされたジャケットから、ガバナー挨拶が聴こえるような気がします。耳は遠くなりましたが、幻聴ではありません。ただ、聴こえてくるのが「ロータリーの未来はあなたの手の中に」だとしたら、それは空耳です。

「ロータリーは分かちあいの心」を受けて、分かちあった心で昨年度、「夢をかたちに」を育てました。かたちになった夢＝未来はどこへ行くのか、というのが今年度です。その解は、渡邊ガバナーのジャケットから聴こえてくることでしょう。

今号表紙の写真は、私の会社で撮影したものです。本来、航空写真測量というのは垂直に地上を写すのが本分で、誤差を極力少なくし、地図作りに最適な写真を撮影するのに注力します。よって、こうした風景を切り取る「斜め写真」は、写真館・写真家の領分でした。最近はカメラの性能が向上したのと、若い人のセンスもあって、きれいに撮れるようになりました。私のガバナー月信最終号の表紙を当社機からの写真で飾れたのは、まさに職業を通じての奉仕を体現できたものと嬉しく思います。

年をとるほど1年は早くなるとは、みなさん共通に感じていることと思います。私にとってのガバナー年度も、あっという間でした。気がつけば、終わっていたような気分です。

2008—09年度は、地区内ロータリアンのみなさんにとって楽しい1年だったでしょうか。そのお役に、ガバナーとしてほんのちょっとでもお役に立てたのなら、私にとって、私のジャケットにとっても、望外の喜びです。

関係各位への感謝の辞は、6月号で書いてしまいました。くどくなりますが、改めてこの場を借りて御礼申し上げます。

1年間、病床に臥せることなく、酒井パストガバナーに御迷惑をかけずに済んで安堵しております。と同時に、渡邊ガバナーには、私が代理で登場する余地が無いほど健康でありますよう祈念申し上げます。

最後に、今後はパストガバナーとして、引き続きみなさんとロータリーを楽しめることを期待し、月信巻頭言の筆を置きます。

地区ガバナー補佐 退任のあいさつ

第1グループ担当
大西 道祥
(深川IRC)

退任のご挨拶

軽い気持ちでガバナー補佐を引き受け、その活動内容、範囲の広さにこれは大変な事を引受けたと後悔する時もありましたが、羽幌RCの温厚で誠実な忠津会長、小平RCの父親のような東海林会長、留萌RCの笑顔を絶やさぬ齋藤会長、妹背牛RCの生真面目で実直な大崎会長、深川RCの喋りのプロの澁谷会長が、クラブ訪問では大変温かく歓迎して下さい、ロータリーの友情を体現する事ができ大変感謝しております。会員の減少は時代の流れではありますが、まだ大変有能な真のロータリアンが第1グループには在籍して下さい、大変力強さを感じました。

ロータリーの魅力とは何かと問われれば、私は迷う事無く、人と人との素晴らしい出会いであると答えます。各自が職業を通して一生懸命奉仕するのは当然であります。異業種間の交わりがどれだけ人間の巾を広げるかを実感してほしいと思っております。

ガバナー補佐を支えてくれた深川IRCの会員の皆様、大変忙しい中、ガバナー補佐室長として最大の努力を払ってくれた大西祥太会員に心からの感謝を申し上げ、ガバナー補佐としての最後の挨拶と致します。

第2グループ担当
神部 洋史
(滝川IRC)

ガバナー補佐を終えるにあたって

第2グループのガバナー公式訪問は例年になく大変暑い最中の7月22日赤平、23日砂川、24日芦別と同日の夕方に滝川の4つのクラブで、各々エレクトも同席した会長・幹事会、クラブ協議会、公式訪問例会という規定の形式で行われた。矢橋ガバナーは各クラブが抱えた問題点を単刀直入に質問され、熱心に適切なご助言をされていた。第2グループは旧産炭地を中心に発展した4市4クラブのため、閉山後は人口減少に歯止めが掛からない状況である。最終的に会員減少がグループ全体として-2で済んだと云うのは上出来だったかもしれない。「増強は厳しいが、退会防止を優先に据える」ことが最重要課題となっている。

ガバナー補佐の重要任務に最低4回のクラブ訪問が規定されているが、グループ内は4クラブにも拘らず、その間の移動に時間が掛かり、各クラブの例会の時間に訪問するのは大変な任務と言える。そんな状況のためクラブ間のメイクアップも多いとは言えなかった。ただここ数年クラブの周年事業が連続し、IMだけでなく記念式典と懇親会がセットになっているため親睦の機会は多く、仲の良いグループである。ガバナー補佐はこれらグループ内を担当するばかりでなく、各種会合に出席する責務があるが、さらに地区委員会への発言の機会を与えて戴くと、もっとやりがいのある仕事になるのかも知れないと感じている。

1年間大変お世話になりました皆様方に深く感謝申し上げます、退任のご挨拶といたします。

第3グループ担当
吉野 顕隆
(栗沢RC)

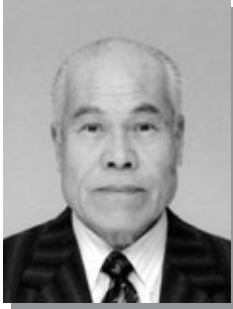
共に栄えよ 我らのロータリー

2009年5月8日(金)第3グループ会長幹事会、親睦パークゴルフ大会並びに一泊研修会が美唄市ビバの湯ゆーりん館で8クラブ16名の会長、幹事がパークゴルフの腕を競い36ホール和気あいあいホールアウト。疲れた身体を温泉で汗を流し成績発表と表彰式そして大懇親会となりました。

8クラブの会長、幹事は一年間のクラブ運営の苦労話し、又各クラブの特色ある親睦活動、奉仕活動等アルコールの量と比例してクラブ自慢、ロータリー理念と現実のギャップに苦笑し100年に1度の世界同時不況の経済危機の中で会社経営から始まり光明の見えない最悪の時に当たった会長、幹事のぼやきで最高潮になりました。さすがKY(空気を読めない)ではと一転クラブ対抗カラオケ大会に突入、ナツメロからデュエットまで盛り上がり1時間の延長をして第3グループの会長、幹事さんがひとつになりました。

最後は「手と手つないで」を大合唱しその勢いで二次会と長い夜が終わりました。本当に私は第3グループのガバナー補佐として8クラブの会長、幹事さんに変なお世話になりました。

ロータリアンの友情に感謝して「ロータリーの夢をかたち」にするため、共に栄えよ我らのロータリーに乾杯致します。サンキュー。



第4グループ担当
大島 利一
(札幌西北RC)

楽しかった補佐活動

札幌西北RCの会長経験者の中からガバナー補佐を選出することになり、ロータリー歴の古い会長経験者が選出候補となっていた。経験の浅い私には無関係と思っていた所、選出期限切れ寸前にお前受けなさいと森本パストガバナーにほとんど業務命令の状態でも分からないままお受けしてしまった。ガバナー補佐の仕事の内容、それよりも難解なロータリー用語を改めて勉強するだけで脳味噌が沸騰しそうになった。

矢橋ガバナーからは4回以上の担当クラブ訪問を義務付けられ、ホームクラブ出席に重点をおいていた私には他クラブの訪問は特に気が重いものとなった。が訪問した全クラブで温かく迎えていただき本当に嬉しかった。各クラブの例会進行や会場の形もそれぞれ特徴がありとても勉強になった。任期中最大の事業であるIMを第4・5G合同で開催しましたが、私はRIテーマの『夢をかたち』だけを採用しただけで、会場・講師・プログラムなど全てクラブの担当会員におまかせで私は御輿の上で鎮座、天気（この日は猛吹雪）だけを気にするだけでしたが全員の協力で大成功で終わりました。この時は一つの事業を行うには普段の親睦活動による会員の結束力の強さだと改めて感じ親睦活動がロータリークラブの基になる。各クラブを訪問して親睦活動の盛んなクラブは例会内が和やかな空気が強く奉仕活動も活発だと感じられました。

私が一年間無事に、いや楽しく勤めることができたのもホームクラブの小川会長を始め全会員のご協力とお世話をしていただいたことで無事に退任することができたものと心から感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。



第5グループ担当
土谷 享
(札幌幌南RC)

一年間を省みて

ガバナー補佐一年の任期を終えるにあたりまして、感謝とお礼のご挨拶を申し上げます。

省みますと、年度スタートの半年以上前から、矢橋ガバナーエレクトの下で協議と研修が始まったのですが、その頃が「未知との遭遇」で一番ロータリーライフを楽しんでいた様な気がします。いよいよ年度が始まりますと、当グループ8クラブによる会長・幹事会の開催や、各クラブ例会に出席させていただき、地区目標の達成と地区大会参加の願いをして廻り、ガバナー公式訪問の折には、各クラブのクラブ協議会にも参加させていただき大変勉強になりました。各クラブの会長・幹事さんをはじめ役員・会員のみなさんにお礼を申し上げます。

今年度のIMIは、昨年同様第4グループと合同での開催でしたが、今年度は第4グループの主管でしたので大島ガバナー補佐をはじめ札幌西北RCのみなさん、そして副主管の札幌幌南RCのメンバーにお世話になりありがとうございました。いざ年度に入ると、あまり考えることもなく無我夢中の一年間だったような気がして反省しています。その罪ほろぼしというわけでもないのですが、後半4月末に、韓国のRI第3700地区大会と、6月末の英国・バーミンガムでの国際大会に、矢橋ガバナーのお供をして夫婦で出席してまいりました（札幌西北RCにお世話になりました）。ありがとうございました。



第6グループ担当
佐藤 泰視
(岩内RC)

1年を振り返って

今年度任期終了のご挨拶を申し上げます。

準備期間を入れますと約一年半の期間でしたが、大変早い時間の経過でした。

ロータリアンとしての活動も不満足不勉強のまま過ごしてきたツケが来まして、クラブ訪問の度に基礎的な部分から予習となりました。そんな私を温かく迎えていただいた各クラブの皆さんに感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

振り返ってエピソードを一つ。すぐ思い出すのが矢橋温郎ガバナー年度に入る直前の6月7日、俱知安RCの斉藤知之会長エレクトと新婦実加さんの結婚披露宴です。ご案内のお話は4月のIMの会場で伺いましたがお二人とも結婚には奥手のように初めてのことで、俱知安RCあげての盛大な祝賀会となりました。新郎新婦入場は雅楽の生演奏で厳かに始まりましたが祝宴が進むほどに大宴会になり、あっという間の2時間半でした。3ヶ月後の9月13日第6グループIMの当日、後志4クラブのパークゴルフの開会式で斉藤会長夫妻から実は新婚旅行がまだで、10時からトワイライトエクスプレスの電話予約が始まるので会場の皆さんに電話予約のコールをお願いしたいとのこと、20数名で一斉にコール、つながったのは斉藤会長本人だけ、でも満席とのことでした。（一般には出さない）

後日、矢橋ガバナーの計らいで切符の手配ができましたがなんと当日大雪で運休、二人は次の旅を計画中・・・・・・・・



第7グループ担当
羽芝 涼一
(千歳セントラルRC)

長期計画でクラブの活性化を求めて

私のグループは、自由でのびのびと明るい親愛の雰囲気溢れるクラブの面々です。中でも設立以来の継承事業である長沼RCが提唱する長沼国際交流フェスティバルは、ロータリー活動の一端を強く地区内に発信し、回を重ねる毎に充実した内容となり、私も参加して楽しい一時を過ごしました。又、グループ内を5～8回位適時に訪問し、CLPについて強力に推進すべく楽しい会話の数々が出来得たことに非常に満足しています。

IMの開催も第12グループとの合同で早くから実行委員会を立ち上げ、「地球温暖化環境問題」をテーマに取り上げ、二つのグループの友好の輪を拡げ、かつ全員登録で大成功を収めました。グループ内の融和を図ることは勿論のことですが、すべて長期計画を活動指針とすることで、活性化のスタートラインであることが、相互のクラブの会員に認識されたことに、深く感謝しこの出会いを大切にこれからの活動に活かしていく所存でございます。

本当に一年間振り返ってグループ内の多くの会員の友情に支えられましたことに厚くお礼申し上げます。

最後になりますが、年度末に第19回日本ロータリー親睦ゴルフ(JGFR)北海道大会をホストし、ガバナーに代わりプレゼンターが出来得たことに深い感銘を受けました。



第8グループ担当
園 修
(浦河RC)

補佐退任に当たって

補佐予定者になってから今日まで会議で札幌へ8回(地区大会含む)グループ内、各クラブ訪問3～4回、IMの準備、次年度補佐の選定、ガバナー月信への寄稿3回、グループ内活動報告(活動予定)3回など随分時間を費やしてきたが一般メンバーは補佐の仕事を理解しているのだろうか?何故ならマスターセッションだけでグループには、どれほど貢献できたのだろうと反省しているからである。

僕、個人は多くの友を得、たくさん勉強をさせて戴いたので有意義な一年ではあったが!

本来、補佐は会員増強しグループ内の活性化を計るのが仕事で、これがあまりできていないのが残念である。

ロータリークラブは未来永劫継続するのでメンバー全員が会長やガバナー補佐を経験すると認識が高まりクラブが活性できるのだが…。

最後に多くの皆様に御指導、御協力を戴き、まがりなりにも任期を全うできたことに感謝し御礼申し上げます。



第9グループ担当
若木日出男
(登別RC)

1年をふり返って

牽引されるだけの会員として永長在籍して来ましたが、非力の上、資質、品格、器量に欠けるものを自認しながら、おこがましくもガバナー補佐を引受けてしまった。

何らこれといった役もこなせず、早や1年は終わってしまい不燃焼の感だけがつのっています。しかし、ガバナーを補佐する役ということで中枢の一部を垣間見ることが出来ました。複合的で多面体であり難解な面もあるが、100年を経てもなお進化の途上にある組織であることを理解しました。歴史は繰り返すと言われるが、ロータリー創始時と同じような混沌混迷の世相が世界的な規模で世の中を席卷している。

果たしてロータリーはこれにどう対処していくのか。創立以来100年の間に二つの世界大戦と二大思潮による混乱を乗り越えて来た、したたかな実績を持つロータリークラブは今後いやす存在となることを確信します。



第10グループ担当
上野 一義
(七飯RC)

少しは学びました

この一年間、研修期間を入れると一年と六ヶ月は瞬間にすぎてしまいました。振り返ると楽しく、充実した期間でした。ガバナー、地区代表幹事、ガバナー補佐、会長、幹事、皆初対面の人で、いまだに人見知りをする私ですが、緊張もすぐに解け楽しく親交を深める事が出来ました。無事任期を完了できたのも皆様の好意と友情のおかげです。改めてお礼申し上げます。

いくらかはお返しをしようと少しは勉強し、会長・幹事会やクラブ訪問でお話しましたが、充分自分の物となっていない事をお話した為理解しづらかった事でしょう。補佐を終えると何となく淋しくなりますので、10、11グループ合同のバスト補佐会を作ろうと光銭補佐にけしかけています。これまでの経験をいくらかでも生かしグループの発展に寄与できる会にしたいと思っています。



第11グループ担当
光銭 裕二
(函館五稜郭RC)

ガバナー補佐退任にあたって

昨年7月ガバナー補佐就任以来、「早いもので」といいますか「やっと」と申しますか、1年が経過し無事ガバナー補佐の役目を終了することができました。これもひとえに第10・11グループのロータリアンならびに地区役員の皆様のお陰と、心より感謝申し上げます。さらに第10・11グループ合同のIMIには会員減少という大きな問題を抱えるなか、大変多くのご参加を戴き盛会のうちに終了できたこと、重ねてお礼申し上げます。

ところで今早急に解決しなければならない課題は会員の増強・維持です。楽しくなければ自分の仕事に関係のないロータリークラブには我慢して入会している必要はありません。しかし多くのロータリアンと交友関係を持つことで仕事に有益な考え方が得られることを早い時期に理解できれば退会者は減少するはずで、さらに私たちのロータリークラブが存在する地域住民にロータリーの活動が見えて、地域に必要な奉仕活動を計画・実践していけば会員増強につながると思います。

どうぞこれからも日々変化していく地域社会が私たちに何を求め、何ができるのかをいつも考え、楽しいロータリーライフを継続して戴きたいと願っています。1年間の皆様のご協力に感謝を申し上げ退任の挨拶といたします。ありがとうございました。



第12グループ担当
板谷 剛
(苫小牧RC)

一年間を省みて

あつと言う間の一年間でした。ああしなれば、こうあらねば、もっとロータリーを勉強せねば、あれこれ考えている内に一年間が過ぎてしまいました。自分自身にとりましては、委員長、幹事、会長を経験した3年間分にあたるほどの価値ある一年間でした。

会長・幹事会の開催、例会訪問、クラブアッセンブリーへの出席、グループ内4クラブ対抗ゴルフ大会、そして第2510地区大会、第7グループ・第12グループ合同都市連合会(IM)の開催、白老RC30周年記念式典、等々、すばらしい会員諸氏の絶大なるご協力を頂き、無難にそして成功裡にそれぞれが履行出来ましたことに心から感謝の意を表したいと思います。

矢橋ガバナー、大金代表幹事のお二人には言葉では言い表す事の出来ないほどのご指導とご協力を賜り誠にありがとうございました。ただ残念なのは、ご期待に報いるような会員の増強が出来無かった事です。

最後にすばらしい第12グループのロータリアン皆様の温かいご支援、ご協力に重ねて感謝とお礼を申し上げます。

地区委員長一年間の足跡

退任挨拶

地区オン・ツー・バーミンガム委員会
委員長 **丸山 淳士**
(札幌真駒内RC・PG)

今年度の第100回という記念すべき年次大会でしたが、主催地が韓国から急遽イギリスに変更になり、世界的不況の中参加者減少が危惧されていたところに、新型インフルエンザの国際的流行が重なり、不安に満ちた大会となってしまいました。

地区ではイギリスの魅力を満喫いただける種々旅行案を考えましたが、申込者が少なく、例年通りの2案を決定することになりました。それでも、北海道ナイトの参加者が50名おりましたので、地区としては例年にくらべてまずまずの参加人員を達成できたと思っております。

今年度は特に年次大会開催委員長に日本の田中作治氏が指名され、例年のない力の入ったお誘いでした。

地区の皆様のご協力に感謝申し上げます、退任の挨拶といたします。

地区会員増強委員会報告

地区会員増強委員会
委員長 **酒井 正人**
(函館五稜郭RC・PG)

期首会員数2,816人に対し今年度4月末の会員数は2,797人であり、19人減ではありますがこの間の入会者数は144人で各クラブが会員増強に十分な努力をしていることがうかがわれます。しかし退会者数が163人で入会者数を上回っております。この傾向は数年前から続いており、退会者を減少させることが最良の会員増強の道であると考えられます。退会者の内訳は多い順に転勤26%、多忙23%、健康17%、死亡8%と続き、明らかに不況が原因と考えられるものが3%でした。退会理由が必ずしも正確に現れて居ない可能性もあるが多忙、健康などの比率が高いことは退会を思い止まらせるほどロータリーの魅力が大きくなかったとも考えられます。入会間もない会員の退会が多いとも言われております。奉仕の有りように失望したからという話もききます。人間関係が原因ともいわれる方もおります。入会後のケアが重要であると言えます。

入会者数を退会者数が上回るので有れば一生懸命増強を頑張っても報われません。退会を思い止まらせるための改善と努力をすることが急務と言えます。100人いれば100通りのロータリーがあり100の価値観があります。互いを認め合い、ロータリアンであることへの充実感を持てるような環境作りが必要であると感じさせられた1年で有りました。

委員長としては地区目標を達成することが出来ませんでしたことを残念に思いますが、今後の課題として会員維持を思考して行かなければと感じております。

新世代委員会活動報告

地区新世代委員会
委員長 **松見 修二**
(函館北RC)

2009年6月26日・27日の両日にわたり、インターアクト年次大会が駒大岩見沢高校インターアクトクラブのホストの基に盛大に開催されました。

この行事を以て、今年度予定されていた新世代の括りの内にある、インターアクト、ローターアクト、青少年交換のプログラムは全て終了することになります。インター、ローター、青少年交換の活動は各委員会の活動報告をご覧頂くとして、未だ地区会員と新世代に溝があることは否めません。

計画書に挙げた、新世代のプログラムをロータリアン一人ひとりの広く理解して頂くことが最優先事項になり、今後も各委員会の自主的な情報交換と情報発信が大切です。

あと一年の任期が有りますが、少しでも現実的な実行を図ることを目指したいと思っております。『隼より始めよ』・ロータリアンのご理解をお願い致します。

ご挨拶

地区国際奉仕委員会

委員長 阿部 弘

(札幌北RC)

国際奉仕委員会の役割は、世界社会奉仕委員会（WCS）と国際友好への活動を支援することにあります。

先ずWCSは今年度も素晴らしい活動を展開しました。2009年2月のインドネシアへの検証ツアー、数々の事業への地区内20クラブの参加、地区大会（札幌）でのブースの展示等があります。これらの活動を先頭に立ってリードしてきた出村知佳子委員長並びに委員の方々に心より感謝致します。

又、国際友好としては地区大会（韓国第3700地区）のロータリアン23名の出席参加のお世話、並びに大邱市で開催された第3700地区大会への矢橋ガバナー以下13名の出席参加があります。これらを推進して戴いた森谷明弘委員に感謝致します。

話は変わりますが、本年2月に札幌に在住する中国人男性（50歳）の頸椎症（加齢による椎間板の変性）の手術を行いました。来日して数年になるのですが、日本語を聞くのは良いのですが、話すことが困難な人でした。私は中国語を話せず、術前・術後のコミュニケーションをとるのが大変でしたが、次第に慣れてお互いに手振りと言葉の日本語で意思の疎通をはかれるようになりました。

両手の痺れ、痛み、筋力低下が回復して「また働ける!!」と喜んで元気に退院しました。患者の笑顔が何よりの報酬でした。

国際奉仕の基本理念は、身近な、身の丈（たけ）に合った奉仕であると思います。地区の国際奉仕活動に参加できなくとも目の前の外国の人々に自分のできることを行うのも国際奉仕活動の一つと考えます。困っている外国の人がいたら手を差し伸べましょう。

多彩な1年を振り返って

地区WCS委員会

委員長 出村知佳子

(札幌北RC)

本年度はとても色々な事が起こった事業年度でした。多くのクラブの皆様にご理解を頂き、WCS事業にご参加を頂き、マッチング・グラント申請に発展した事業もございました。これも当地区の各クラブさんのWCS事業が、しっかりと根付いている証と嬉しく思っておりますが、予想をしない資金の枯渇により、事業の実施が延期になりました。多くの子供たちが安全な水等を必要としている中、残念でありましたが、WCSの特性から、完全な単年度の事業は難しいですが、クラブの担当の皆さんが引き継ぎをして頂き、事業を継続支援して頂いていることに深く感謝申し上げます。

また検証ツアーについては今年度は2月10日～2月15日インドネシアジョグジャカルタで実施、孤児院の水事業や寝具事業、移動図書館などに訪問致しました。支援クラブの皆様から子供達へのお土産をお預かりし、届けてきましたが、トランジットで降り立ったインドネシアの空港でそれらについてカスタムからの尋問を受け、「きみだけ一人別室へ来なさい」と言われ、小部屋で尋問を受けましたが、なんとかきりぬけ、「最後にボールペン1本だけもらっていいかい?」と言われ、しかたなくそれだけはそこに置いてきました。ツアーの中では参加者の皆様より真心のこもった交流の大切さを改めて教えて頂きました。

昨年度の課題でありました広報も事業の参加者の皆様のWCS広報の助けもあり、広がっていったことを感じました。今年度は20以上のクラブの皆様にご参加を頂き、心より御礼申し上げます。このような色々な事が起きた年の中、なんとか事業をひとつの形にして年度を終えることができましたのは、WCS事業への労力を惜しまない、素晴らしい委員メンバーに恵まれているおかげと深く感謝しております。毎月委員会を開催し、話し合い、困難も乗り越えることができました。

WCSの実践は、事業が実施された地区の人々の幸せにより、実施クラブの皆様もとても大きな喜びを得ることが出来ます。2009-2010年度もWCS事業をよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

地区インターアクト委員会
委員長 戸部アナマリア
(札幌はまなすRC)

私はこの3年間当委員会の委員長を務めさせて頂きましたが、その間に私自身が色々と勉強する機会があり、また多くの貴重な経験をする事が出来たと考えています。思い出に残っているのは、シカゴ、コペンハーゲンやソルトレイクシティ等でのRI世界大会でインターアクト関係のブースで資料等を見て廻った際に、他の委員会に比べその資料は少ない寂しいおもいをした事です。しかし、これらの大会ではインターアクトに縁のある世界の多くのロータリアンとの出会いが多々あり、お互いにこの委員会の活動や方針についての情報交換や意見を述べ合う機会を持てた事はとても良かったと思っています。

又、ブエノスアイレスでの世界大会頃より気が付いた事は、その年度のRI会長のスピーチに青少年に対しての期待や希望に関する内容のものがいつもあった事です。ロータリーは奉仕活動のクラブではなく、奉仕活動をする人達の集まりであり、素晴らしい出会いの場、そして人生の勉強の場でもあります。この事をロータリーはインターアクターやローターアクターに十分に理解してもらい、将来は立派なロータリアンになってもらいたい事、又ロータリーにとっては宝であることを知ってもらいたいと思います。

私はこの1年間を含め委員長を務めた3年間、種々のプロジェクトを考え実行すべく努力して来ましたが実るものは多くはありませんでした。これは地区のインターアクトクラブに関係する方々と委員会とのコミュニケーションが充分にとれなかったが故と深く反省している次第です。

最後になりましたが今年度もまたインターアクター、クラブが所属する学校関係の皆様、そして矢橋ガバナー、委員会委員の方々及び多くのロータリアンの温かく友情溢れるご指導、ご協力に対し心より感謝申し上げます。

有難うございました。今後のインターアクトの益々の発展を祈りつつ。

やっぱり大変な一年間

地区ローターアクト委員会
委員長 柳 孝一
(札幌幌南RC)

クラブ幹事も終盤にさしかかり、来年はゆっくりできるなど考えていた昨年の6月、大金地区代表幹事から、7月からまた、ローターアクト地区委員長を再度引き受けてくれと、強引な要請があり「ノー」を言える勇気もなく、何の準備もないまま引き受けたことから始まりました。

2年前とは若干ローターアクトを取り巻く環境は違っていました。地区委員のロータリアンの方々、布施地区代表(赤平RAC)や地区役員、大半のローターアクトを知っていたので、いろいろ助かりました。この2年間提唱クラブのロータリアンをして、アクトとは関わってきましたが、離れてみて「ローターアクトを知らないロータリアンが多い」ということを実感しました。そこでまず、ガバナー月信を使い、できるだけローターアクトをPRすることにしました。今まで7本(この原稿で8本)投稿しました。結果は未確認ですが、原稿はあとにも資料として残せました。

一年間の地区委員会の活動として、7月5日提唱クラブ委員長会議・委員会。10月11日 地区協議会(函館市)。11月1日岩見沢ローターアクトクラブ45周年記念式典。11月22~23日北海道ローターアクト交流会(根室市)。2月7~8日温泉交流会。2月21~22日ローターアクト全国研修会(長崎市)。6月20日地区大会(札幌市)に協力・参加しました。とにかく忙しい委員会です。

ローターアクトが企画した新しい事業の実施を手伝い・支援しました。それは函館駅から赤平市まで約375キロを1台の自転車と2日間総勢16名で交通安全を訴えかけながら、ローターアクトをPRした事業で、いい活動だったと評価したいと思います(詳しくはガバナー月信12月号で)。

次年度は2クラブ少なくなるやや向かい風のスタートになりますが、地区委員・提唱クラブのロータリアン、地区代表はじめ地区内ローターアクターと力をあわせ、この一年が無駄にならないよう精進いたします。

一年を顧みて

地区社会奉仕委員会
委員長 阪崎健治朗
(札幌西RC)

近年のボランティア活動の発展は目を見張るものがあります。古いも若きもかつてこれほどの広がりを見せた時代はなかったと思います。それだけ多くの人の心は他人への関心やサポートすることの大切さを理解し、行動に移すこ

とに芽生えてきたのでしょうか。その目は自分の足元だけでなく、広く地球社会にまで向けられるようになりました。

しかし、その一方では理解に苦しむ現象が多々見られ、不可解な社会の欠陥を見せられているような気がしてなりません。そのために私は「人の絆を創る」ことを願い、クラブのある地域との対話のできる機会を願い、自らも模索してまいりました。しかしクラブにおいては言葉足らずやイメージ不足のためか、実現に至ることができませんでした。反省の一つであります。地区社会奉仕委員会は、ロータリーの原理に基づき、クラブの主体性とロータリアンの自主性にゆだね、支え役に徹しようと努めた一年でした。にもかかわらず、地区への期待の大きいこともまたひしひしと感じ、応えられるような歩みを目指してきました。7月に開催するブロック別の意見交換会は先輩の足跡に習い、100%のクラブからいただいた計画書を手作りによって作成し、集まったクラブの社会奉仕委員長や関係者の方々と一緒に情報を共有し、学びあえたことは大きな収穫であり、継続の必要性を痛感しました。

人数が少なく苦しみながらも、ロータリーの精神を生かそうとするクラブ、人数の多いクラブはそれなりに視野の大きい活動を進められていることが印象的でした。

私個人は委員長という重要なお役に相応しい貢献をなしえないことを深く自省しておりますが、それ以上の感謝は実に多くのロータリアンと出会えた喜びです。その方々からあふれるほどの多くのことを学べたことです。一年を顧みてさまざまな課題が沢山あることを心に覚え決して驕らず、活力ある働きを目指してまいりたいと存じます。

地区職業奉仕委員会報告

地区職業奉仕委員会

委員長 綱木 保利

(苫小牧東RC)

RI会長のテーマ「夢をかたちに」と矢橋ガバナーの地区目標「3項目」に従い、各クラブで、各職場で4つのテストの唱和がさらに行われるように、そして職業を通して“職業倫理をもう一度高める”ように見直すことの奨励を心掛け、「職業奉仕」の普及と実践の呼びかけをいたしました。

今年度の活動の成果として

過去3年間の委員としての在籍の中で会として職業奉仕実践事例集（職業奉仕を通しての地域社会貢献事例や委員会活動報告寄稿の小冊子化）の配布や、さらなる職業奉仕意識の高揚、実践としての「職業に関するクラブフォーラム」「勉強会」や行動の奨励が行われてきましたが、

- ・4年目の今年度も引き続き「クラブフォーラム」「勉強会」や行動の奨励をいたしました。幸い、多くのクラブで実践を頂きました。
- ・地区内のたくさんのクラブから、今年度も「職業奉仕」に関する「例会卓話」の要請を頂きましたので、各委員で分担して、これに応えさせていただきました。
- ・また、今年より新たに加わった「出前授業」・「職場体験」について、登録会員名簿のデータベース化を行い、さらに小学高学年を対象に出前授業の要請があり、実施いたしました。

残念ながら当初計画の中で消化出来なかった部分も多少ありましたが、PGのアドバイスやガバナー、地区幹事はじめ多くの皆さんの温かいご指導、ご協力を頂きながら、この一年を終えることができました。本当にありがとうございました。

委員長退任の御挨拶

地区文献資料室

委員長 肘井 博行

(札幌手稲RC)

地区文献資料室委員長、札幌手稲ロータリークラブの肘井です。

委員会では、この2年間、多数となりました文献の保存方法についてスリム化に努力してきました。他の地区に比類なき文献を保持している訳ですから、「宝のもちぐされ」とならないよう、地区会員及び同クラブの活用を活性化させる必要があります。次年度も委員長を務めることになりましたので、次期はガバナー通信に資料室からの発信、そして利用者、利用クラブの経験などを掲載するなどし、みなさんが利用し易いような広報に努力していく予定ですので、どうぞよろしく申し上げます。

地区クラブ奉仕委員会報告

地区クラブ奉仕委員会
副委員長 小田切房之
(札幌東RC)

本年度は山本委員長の活動計画に則ってクラブ・リーダーシップ・プラン(C.L.P)について地区内のクラブがどの程度導入しているか、関心を持っているかを調査して「効果的なクラブ」運営の一助とする為に「活動計画の指標」の集計をし、4月12日開催されました地区協議会分科会で集計表を配布致しました。この集計は、2~3年継続して行い傾向を把握する予定です。

次に報告の主旨とは異なりますが「例会プログラムの工夫」について記述させていただきます。

数学者・藤原正彦氏は著書「国家の品格」の中で、情緒や形を重んじた日本型文明の可能性を述べています。もしロータリーの中で形を問われるとすれば例会が最も代表的な基準であると考えます。

視点を変えて最近会員増強を推進する中で出席率が険しいとの理由で断られる例があると聞きます。又ロータリーの魅力が薄れて来ているとの声も聞きます。しかしこうしたネガティブな声を真摯に受け止めればポジティブに反転するヒントになる様な気がします。

ITの進化によって情報は洪水の様にあふれ距離も時間も隔たりなく入手出来る様になりました。しかしホットで有用な情報を正しく得られていますか。文化や歴史の造詣は深まっていますか。

もし貴方のクラブのプログラム委員長さんが放送局のプロデューサーの様に真剣に視聴率を意識したらもうチョット内容を工夫できませんか、年間おおよそ40回の例会があります。RIの重点テーマやクラブ事業もバランス良く振り分ける必要はあるかもしれません。しかしもっと自分が聞いてみたい知りたい、皆様にも聞いてもらいたいそんなお宝のスピーカーを探手だてはしていますか?いくつかのクラブの年間プログラムを拝見しますと出席率が上がるだろうと感じるゲストスピーカーを招いてるクラブがあります。

予算がないから、交通アクセスが・・・、人脈が・・・etc.

ネガティブにとらまえたなら前進しません。一歩踏み出す勇氣、努力が必要だと思えます。

ロータリーの例会に出たら新しい情報が得られた、こんなに知識が豊かになった、今度あの人とこんな話をしてみよう、情報が氾濫していると言う事は世の中が動いている証しのはずです。その中から自分が確かな情報をどこでどなたから入手するのか、その切り口のひとつがロータリーの例会でありロータリアンの友情の様な気がします。

おっくうな例会から魅力のある例会に衣替えするのは今貴方が先鞭を付ける時だと思うのです。そしてそれぞれの例会がその「クラブの品格」として根づく様な気がします。

地区IC委員会報告

地区IC委員会
委員長 光銭 健三
(北斗RC)

前年度の坂井委員長から引き継ぎ、1年目の委員長ということで活動の多くは前年度からの継続事業となりました。

3回目となる「5分でできるホームページ作成講習会」は仲川会長をはじめ登別RCの皆様のご協力をいただき、設備が整った日本工学院北海道専門学校で18名の参加者を迎えて開催することができました。この講習会ではWord Pressというソフトウェアを利用しているため特別な知識を必要とせず、ブログ感覚でホームページを作成、更新できます。これまでの3回の講習会によって5クラブと1委員会がホームページを立ち上げました。現在地区内のホームページ開設クラブは33クラブ、地区委員会では8委員会が開設しています。

IC委員会は毎日のようにメーリングリスト(メールを出すと登録者全員に同じメールが届くシステム)で情報や意見交換をしていますが、時には顔を合わせる会議も必要で、今年度は2回の委員会を開催しました。どちらの会議にも大金地区代表幹事や石丸地区幹事にご出席いただき、たいへん有意義な会議となりました。

地区大会ではブースを開設しました。インターネットコーナーには多くの方に訪れていただき、楽しい情報交換の場となりました。

また委員が分担して情報を配信しているメールマガジンの登録者数は約500名で、1年間で配信したメールは92件でした。

地区ホームページは今年度も11,000回余りのアクセス数がありました。次年度からはデザイン、内容ともに一新する予定です、今まで以上に見やすく早い情報をお届けできるようになります。

この1年間、皆様の温かいご支援を賜り、また委員会メンバーに支えられ、無事に任期を終えられたことを感謝申し上げます。

矢橋年度の終了にあたって

地区ロータリー財団委員会

委員長 岩城 秀晴

(札幌南RC・PG)

財団委員長として2年目の年度になり財団の基本的な理念は、健康の改善、教育の支援、貧困の軽減を通じて、われわれロータリアンが世界理解と善意、平和を推進できるようにすることがロータリアンの使命であるといわれております。加えてポリオは世界的に見れば未だ未だ財団のプログラムによって手を差し伸べることが必要なのです。

このように財団の重要性を十分に知りつつも近年の経済の低下による影響で寄付に対する考え方も低調な状況になっております。また財団の寄付収益が、サブプライムローン問題で投資がうまく行かず、4400万ドルの損失を生じました。先般の財団のセミナーにおいてこの問題が討論されましたが、これも評価損失でペーパーロスであるから心配はないと、田中作次管理委員は説明されておりましたが、私は思うにファンドを単一の基金にしないで、数銘柄のファンドに分散し、リスクも分散されるのではないかと考えられます。

いずれにしましても、ロータリー財団には寄付を受けて初めてプログラムが実施されますので、どうか御理解のうえ御協力をお願い申し上げます。

私は多くのロータリアンに御理解を戴きたく、昨年11月の月間には9クラブで卓話をさせて戴きました。大変御熱心に傾聴されておられ、矢張りロータリアンの財団であることに意を強くさせられた次第です。一方、プログラムの方は財団国際親善奨学金で大学レベルの民間の留学プログラムとして奨学生の募集をしておりますが、多くの応募者より試験を実施してその中から合格者として6、7名の方を6ヶ月または1年間の留学資金を支援する制度です。

次にGSE委員会がありまして、来年の4月にスウェーデンから交流をするのですが、当地区からもリーダーのもとに4名の25～40歳までの事業や専門職務経験の浅い文化と職業に関して4週間～6週間の交換旅行をするための旅費を補助するものがあります。また、地区補助金がありまして地区内クラブの奉仕活動または人道的活動を支援することが目的とされている補助金ですが余り知られていない故に応募数が少なく、是非御活動に申請をお願い致します。

財団も改革をしております。未来の夢計画に基づく新補助金として現行を切り替えようとしております。どうかこれからのロータリー財団については2013年までに旧プログラムは廃止されます。従って皆様方には十分な情報を御提供して参りたいと考えております。

また財団学友は元財団国際親善奨学生、元GSE参加者等、元財団プログラム参加者である学友の学友会を設立して将来のロータリークラブ会員になって貰うように支援する委員会もあります。

以上、この1年間の概要をご報告いたしましたので皆様方のロータリー財団に対して更なる御理解と御協力を御願い致します。

国際親善奨学金がなくなる？

地区国際親善奨学金委員会

委員長 菅原 秀二

(札幌大通公園RC)

今年度の最大の問題は、ロータリー財団本部が多額の損失を計上し、文化研修とマルチイヤーの奨学生の廃止が1年前倒しされたことである。つまり、すべての奨学生が1学年度になったのである。私がこの通知を受け取ったのは、地区の最終面接の1週間前であった。すでに10～11年度奨学生の募集が終わり、各クラブでの面接も終わっていた。その結果、文化研修に5名、マルチイヤーに2名、1学年度には4名、合計で11名の応募者が最終面接を待っていたのである。

いまさら門前払いするわけにもいかず、各候補者には1学年度に変更しても留学を希望するかについて、面接の際に確認を取った。その結果、文化研修の希望者から2名、1学年の希望者から2名、マルチイヤーの希望者から2名とバランスよく合計6名の合格者を出すことができた。ただし、すべて1学年度の奨学生候補者である。

すでにご承知の方も多いと思うが、新補助金への移行に伴って、国際親善奨学金は廃止される。しかし、奨学金がまったく姿を消すということではない。奨学金は新補助金制度の下で、各地区の独自性を強く発揮できるものに生まれ変わるということである。本地区は従来プログラムとの関係で（もちろん国際親善奨学金もその大きな一因であった）、新補助金のパイロット地区となることを見送ったので、他の地区がどのように新奨学金を構築していくのかを見極めたい。本地区にふさわしい奨学金制度を構築していくことができるし、またそうすることが必要でもある。昨年の財団セミナーでは、この点についてまだはっきりしていなかったため、明確な説明ができなかったことをこの場をかりてお詫びしておきたい。

今後は財団セミナーをはじめ、さまざまな機会に地区の会員の皆さんとこの点に関して議論できればと考えている。あと1年、この委員会をあくまでこの委員会の者としては、これからの展望と筋道を明確にした上で、次の方にバトンタッチできればと思う。今後とも本委員会へのご支援・ご協力をいただければ幸いです。

今期GSE委員会を終えて

地区GSE委員会

委員長 **岡崎 芳明**

(小樽南RC)

今期研究グループ交換委員会の仕事は、次年度スウェーデンR12360地区に派遣する、派遣チームリーダーを決定する事から始まりました。矢橋ガバナーはじめ渡邊ガバナーエレクトとGSE委員、橋本前派遣チームリーダー等の方々により構成されるGSE選考委員会にて、岩城ロータリー財団委員長のご推薦もあった札幌東RCの奥貫一之会員（北海道リハビリ理事長）が決定致しました。次年度のGSEは相手地区が福祉先進国のスウェーデンという事もあり、我が地区初めての重点的GSEとして福祉・介護に関わる方々ばかりを集めたGSEプログラムを計画しました。奥貫派遣チームリーダーはお仕事柄今回の派遣リーダーには適任の方と思われます。

派遣団員の募集に際しましても、過去の経験を生かし、とまかく広範囲に渡り沢山の派遣希望者を募る事に焦点を置きました。まず当地区の全ロータリークラブにポスターと募集依頼文を送り、併せて北海道新聞に掲載、更に奥貫派遣リーダーにお願いし（社）北海道社会福祉会様にご協力を仰ぎ、お陰様でGSE委員会としては最も多い14名の派遣団員希望者が集まり2月1日にGSE選考委員の皆様方により選考試験が行われました。

この度は福祉・介護という職業に現在携わっている方ばかりを集めましたが、職業に取り組む姿勢が素晴らしい方が多く集まり、その中から派遣団員を選ぶ事は今まで以上に難しいものでした。今回は奥貫派遣リーダーのご意見もあり、当委員会としては初めて派遣の4名を決めず、1次選考としまして補欠団員も視野に入れた6名を選び、派遣研修を4ヶ月行い6月27日に成果報告会を開催し正式派遣団員4名と予備派遣団員として2名を決定しました。

私事ですが、今期でGSE委員長を終え次年度は手に掛けたスウェーデンとのGSEプログラムの行方を見届ける為に、もう1年だけGSE委員として残り、沼舘新委員長と石丸副委員長を陰ながらお手伝いさせて頂くつもりです。

ロータリー財団の減収に伴い、GSEプログラムの存続も先行きが不透明になって参りましたが、与えられたプログラムを大切に最後まで皆さんと協力をしながら勤めたいと思っております。

今期毎回委員会に岩城ロータリー財団委員長と神部次期代表幹事が御出席下さいました事に感謝を申し上げますと共に、R1第2510地区ロータリアンの皆様のご協力と関係各位のご協力に心より御礼を申し上げ、今期GSE委員会よりのご報告とさせていただきます。ありがとうございました。

地区補助金委員会報告

地区補助金委員会

委員長 **須田 義雄**

(札幌南RC)

2003年7月から地区補助金制度がスタートしました。今まで広報が行き届いていなかったせいでしょうか、毎年申請件数が10件前後と低調に推移しております。ロータリー財団に寄付した年次プログラム基金の50%が地区財団活動資金（DDF）として返され、このうち地区補助金は毎年約30,000ドルがロータリー財団から送金されて来ます。

今年度は前期と後期と分け受付しましたが、前半低調で直接各クラブに電話して申込み申請を依頼いたしました。年々条件が厳しくなって来ており、今回の審査基準はロータリー財団地域セミナーハンドブック（2008年11月19日）に準じてガバナー、財団委員長、各委員で厳正なる審査を行い、申請12件中11件が認められました。（詳しくはガバナー月信2009年2月号、今年度地区要覧年次報告書に掲載しております）

昨年4月の地区協議会で申請は特に面倒でなく、人道的活動と地域のニーズに応える物であれば、各クラブの社会奉仕委員会を中心に地域と密着したプランを立て、その一部を補助金として支給することなど説明したのですが、十分理解されなかったのでしょうか、申請件数は少なく非常に残念に思っております。

次年度も引き続き委員長を引き受けることになりました。7月1日から受付を開始します。なるべく早期にロータリー財団補助金プログラム申込書を提出して頂き、その都度審査が出来ればと考えています。毎年余剰金を出してロータリー財団本部に返金していることから、ぜひ有効に活用して頂きたくお願いする次第です。

委員長を終えて

地区財団学友委員会

委員長 **高橋 宣充**

(札幌清田RC)

前委員長より急な引継ぎに始まり、委員としてもまだ一年あまりの私がかどうか任務を終えることができ、今はただ安堵の日々です。本当にいろいろな方にお世話になりました。この場を借りて感謝いたします。

さて財団学友委員会とは元ロータリー財団奨学生、元GSE団員で構成する「財団学友会」の活動に対する支援とロータリー活動への参加促進、また学友に対するロータリークラブへの理解を深めてもらう活動を中心に行っております。

大きな活動のひとつに海外に留学した財団奨学生の『財団学友帰国報告会』を毎年行っております。本年も1月31日に札幌プリンスホテルにてロータリアン、学友合わせて50名の参加があり、学友の体験がいかに貴重なものであるかを知るうえで、またとない機会でありました。これから留学を目指す候補生にも大変参考になったと思います。

またクラブからの要請により卓話の依頼にも応じ、地区大会、ロータリークラブ行事への参加にも学友には協力していただきました。今後も各クラブの活動で学友の参加協力が必要な場合は、メーリングリストも充実しておりますので是非お声掛けをお願いいたします。これからも他地区の学友会との交流、活動を知っていただく為の学友会「ニュースレター」を毎年発行していく予定です。

現在財団学友会は会員が300名を超え各方面で活躍されておりますが、少数ですがロータリークラブの会員として活動している会員もおります。少しずつではありますが、学友には様々なかたちでロータリー活動を理解していただき、将来は会員として参加していただくよう導くのも当委員会の役目と思われまますので各方面のご理解を戴きたいと思っております。今後とも学友会活動への支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

米山記念奨学委員長を終えて思う

地区米山記念奨学委員会

委員長 大石 春雄

(札幌はまなすRC)

今から5年前、2004年の6月に私どもの親クラブであります札幌北RC、竹原前委員長からの電話で、私のロータリアンとしての活動が始まったといっても過言ではありません。米山と言えば、奨学生を受け入れて奨学金を渡し、寄付をすれば良いとしか認識していない私でした。しかし、委員会活動を通し留学生に接する機会が増すほどに、日本に学び母国に帰って良い国にしたいと言う思いで学んでいる留学生が多いことに、感銘を受けました。日本で学ぶことは大変です。生活のためのバイト、寝る時間を惜しんでの研究、第2510地区では年間18名の奨学生しか受け入れることが出来ず、一握りの人しか援助することが出来ませんが、米山記念奨学事業の素晴らしさを体験することが出来、携わったことに誇りを感じます。

竹原前委員長の時の一人当たり寄付金は全国22番目でしたが、私の委員長になって23~24番目となってしまい、私の努力が足りなかったと痛感しております。地区73クラブの内、奨学生が18名ですので、大半のクラブは奨学生と接する機会がないわけです。少しでも多くのクラブに、奨学生と共に訪問し、生の声を聞いてもらう努力が足りなかったと反省しきりです。

私は、委員2年、委員長3年の計5年間、米山記念奨学委員会にお世話になり、とても素晴らしい経験をさせていただきました。竹原前委員長に感謝!!。そして至らない私を助けて下さいました伊藤長英常務理事はじめ委員の皆様にも感謝!!。この米山記念奨学事業が永遠に続くことを祈って、委員長を退任させていただきます。有り難うございました。

地区米山学友委員長を終えて

地区米山学友委員会

委員長 村上 淳

(札幌東RC)

このたび急なことでありますが一身上の都合により、地区米山学友委員長を降りることになりました。米谷前委員長の後を受けて08-09年度から米山学友委員長を仰せつかりましたが、わずか1年間の短い委員長という結果になり大変残念に思います。当時ロータリークラブでの在籍も浅く、また米山奨学会や米山学友会についても初めての経験であり、知識や経験がまだまだ不足している中での就任でしたが、台湾ご出身の米山学友会陳会長並びに見延初代学友委員長・米谷前委員長、更には伊藤米山記念奨学会常務理事・大石米山記念奨学委員長の皆様のご協力とご支援を頂きながら、この1年間なんとか頑張ることができ、とても楽しく務めさせていただき良い経験となりました。特に定例のメインイベントである11月の総会・懇親会や先日の6月の家族懇親会では、多くの学友と奨学生の皆さん並びにご家族の皆さんそしてカウンセラーをはじめロータリアンの皆さんが集い、短い時間でしたが熱心な皆さんと楽しいひと時を過ごしながらコミュニケーションを深めることができ、良い思い出となり嬉しく思っております。また地区で開催される各種交流会やセミナーそして奨学生との遠足会・長沼国際交流会などでも幅広い交流と親睦を深めることができました。

幸い後任には、現地区米山記念奨学委員会の大石委員長に引き継いでいただくこととなり、これまでも両委員会は絶えずコラボレーションを取りながら活動をしてきた関係にあり、米山学友委員会へのご理解も深くとても心強く安心致しております。

第2510地区の米山学友会は、歴史も浅く組織的にもまだ発展途上にあるため、地区米山学友委員会が運営や実務を全面的にサポートしながら協働している段階にあります。今後の米山学友会並びに米山学友委員会のますますの隆盛と会員の皆様方のご健勝とご発展を衷心よりご祈念申し上げ、退任の御挨拶と致します。

【ロータリーの友】を よりロータリアンの身近なものに

ロータリーの友委員会
地区委員 橋本 信夫
(札幌西RC)

「ロータリーの友」は世界の31ヶ国で発行されているRIの公式地域雑誌の一つで、印刷と電子の二つのメディアによりRIや国内のロータリー情報を会員に提供するべく様々な企画が行われてきました。

これにより「友」委員会では、特に2002年以来「友」の体裁や編集方針を大きく変革させながら読み応えのある紙面作りを目指して努力を重ねてきました。さらに2009年7月から【「ロータリーの友」をよりロータリアンの身近なものに】の方針のもと、国内34地区を3ゾーンに分け、ゾーン別の会議を新設して視点を改めて新しい編集企画を展開することになりました。つまり少人数による密度の濃いゾーン会議をもとに担当地区の問題を深く掘り下げ、よりスピーディーにインパクトのある紙面作りを心がけようとしているわけです。これにより第2510地区は北海道、東北と関東の14地区を含む第1ゾーンに属して編集に参画することになります。

そこでこの編集方針に従って【「友」をより身近なものに】するために、以下の変更を行うことになりました。

編集企画の主なる変更点

① 表紙は、公募写真「祭」で飾る。

表紙の解説は元アサヒカメラ編集長の岡井耀毅氏が担当する。

② クラブ探訪「手に手」の継続と充実を図る。

国内34地区の地区委員から推薦されたクラブの中から、様々な角度からの調査、全国的な配置、クラブの大小などのバランスを取りながら対象クラブを選ぶ。このクラブにプロのライターとカメラマンを派遣し、取材を通して優れた紹介記事を掲載する。

③ テーマを絞った座談会の記事を掲載する。

年間3回ほど、ロータリー活動に関する具体的な体験、例えば「広報活動の実施」、「地区補助金での奉仕実例」、「例会を楽しく有意義にする方法」といった具体的なことを実践者同士で話し合う座談会を開催して紹介する。

④ 「ガバナーのページ」を復活させる。

現在のガバナー執筆の「地区自慢」の代わりに、以前あった「ガバナーのページ」を復活させ、地区の紹介にとどまらず、ガバナーの思いやロータリーに関する幅広い意見を掲載する。

⑤ 「地区のたより」を廃止する。

「地区のたより」は「ロータリー・アット・ワーク」などとの重複が目立つのでこれを止め、地区の特色を出せる新しい形式の特集などを組むようにする。

2007年から電子情報メディアであるWeb「Rotary Japan」が広報誌として開設され、国際大会、国際協議会、地区大会などの模様をWebで詳しく速報できるようになりました。更にRIのホームページ、米山記念奨学会や各地区・各クラブなどもリンクを張って底辺の拡大も図れるばかりでなく、ロータリアン以外にもインターネットによる迅速な公開の道が拓かれました。

この「友」は会員の機関誌なので、まず会員の投稿をもとに、それぞれの意見の開陳や公開討論、また様々な経験、職業知識などを載せて会員相互の交流とロータリーの啓蒙を図ることを大きな目的としています。しかし「友」にはRI本部からの援助がないので、独自の財政基盤を持たなければ継続的な発刊が難しくなります。このため「友」への興味を高め、購読意欲をそそらせるよう様々な工夫と努力を重ねられて、今では一般商業誌に劣らないほどの内容を誇るようになりました。

したがってこの購読の拡大によって、「友」の運営基盤が財政的に支えられるばかりでなく、地域社会にロータリーの特色や素晴らしさを伝え、会員増強の機会をも拡張できることになります。会員の育てたこの「友」がいつも会員の座右に置かれ、クラブ運営や活動の糧として広く活用して頂ければ幸いです。

(参考資料：2009—10年度 ロータリーの友委員会方針 2009年7月1日開催)

青少年に奉仕して

地区青少年交換委員会

委員長 宮崎 善昭

(札幌西RC)

2008～2009年度もロータリアンの皆様を始め多くの方々にご尽力いただき事業を終了することができましたことを感謝申し上げます。

世界のロータリーが青年育成に注目し、次代の世界のリーダーとして奉仕と平和を創りだす人を養成することにエネルギーと資金を投入することは大きな意義のあることです。特に、高校生の長期に渡る国際交流というプログラム手段は、ロータリアンを始め多くの協力者が関わり時間と手間のかかるものです。また、このプログラムに参加した生徒は、人間の「善意」を経験し本気でそのために奉仕する大人の姿を目の当たりにして価値観のパラダイムシフトを経験するのではないかと思います。過去のこのプログラムの参加者との交流が何十年も継続する場合もありますし、自国に帰国してから相互に音信のない人もいますが、1年間異国で生きたという経験（失敗や、躓きもあるでしょう）は必ずや彼らの価値観や人格形成に大きな影響を及ぼすものと信じています。

帰国した生徒の1年後の成長した姿を見ていると彼らに大きな希望を見出すことができ、まさにそのために本委員会が存在し奉仕することの喜びを感じることができます。

ロータリーの原理は政治的ステム構築による有効性を問うのではなく、人間が一人ひとりをいかに大切に、個人の奉仕活動によって理念や理想を実践することを「良し」とする自他共に成長し続けることにあると思います。その意味では、一人ひとりのロータリアンは社会の改革を個人の人的成長によって成し遂げようを試みる壮大なドラマの主人公であるということができるとは思っています。

この3年間本委員会に携わることができ、ロータリーでなければ会うことができなかった多くの人々と出会うことができ、教えられ、支援され、励まされてきたことを覚え感謝申し上げます。

次年度からは新委員長の元に委員会運営がなされますが、今までと変わらないご支援をお願い申し上げます。

新 入 会 員 の ご 紹 介

(敬称略)



飯島 康生

(余市RC)

■入会/
09年4月1日
■職業分類/
ゴルフ場



中川 徹

(倶知安RC)

■入会/
09年6月1日
■職業分類/
歯科医



木村 貢

(江別RC)

■入会/
09年6月11日
■職業分類/
電気事業



澤合 賢一

(札幌北RC)

■入会/
09年6月22日
■職業分類/
経営コンサルタント



平木 正一

(苫小牧RC)

■入会/
09年6月26日
■職業分類/
生命保険



我々はどこへ行くのか

国際ロータリー第2510地区

パストガバナー 塚原 房樹

(札幌東RC)

《あらばしり・中汲み・責め》

早いもので、私の“Rotary Notes”も最終回となりました。ロータリーを愛しているがゆえに、いつもロータリーの行く末を案じて辛口の話が多くなりました。ロータリーを讃えることはやさしい。しかし物事には必ず光と影があります。自分の月信ならともかく、矢橋ガバナーの月信の軒先を借りていながら、つい身勝手にドグマティックな文章になってしまい、われながら読み返す気にもなれず内心忸怩たるものがあります。

ロータリーを学ぶには、科学的なアプローチと哲学的なアプローチがあります。手続要覧を見てもお分かりの通り、ロータリーは実に多くの歯車から成り立っています。「ロータリーを科学する」とは、それらの歯車を別々に分けてその一つ一つについて正確な知識を得ようとするものです。

ただロータリーは年々複雑、細分化しすぎて、相互の連携が難しくなり、木を見て森を見ずの弊害が心配されます。では「ロータリーを哲学する」とは、どういうことでしょうか。科学の対象は存在の一部ですが、哲学のそれはロータリーの存在の全部です。ここで注意しなければならないのは、哲学は存在の全部であるというのは、一つ一つのものを全部知るということでなく、全体を統一的に知るということです。私は月信に原稿を書くにあたり、「ロータリーとは何か」、「ロータリーの奉仕哲学」、「ロータリーの存在理由」など、ロータリーをトータル的にとらえてみたいと思いました。しかし、私は決して科学より哲学的アプローチが優っているとは言いません。科学と哲学はいずれも必要で、相補って完全になるのだと思います。

酒を絞る行程の言葉に「あらばしり・中汲み・責め」の三段階の名前があるそうです。最初に出てくるお酒は薄く濁っていて、これを「あらばしり」といいます。「あらばしり」が出終わると、透明なお酒が出始めます。この透明な部分を「中汲み」といい、香味のバランスにすぐれています。最後に圧力を掛けギュッと絞り取ることを「責め」といいます。私の月信への寄稿も酒を絞るときと同じようなサイクルでした。最初のころの原稿は、内容は乏しいが割合苦労せずに勢いで書きました。中盤はとて「中汲み」の銘酒とは言えませんが、最初のころに比べて、自分の書きたいものが迷わずに頭の中にスムーズに湧いてきました。しかし終盤になるにつれ頭の中が空になり、脳みそに圧力を掛け、ギュッと絞り取る「責め」の苦渋を味わいました。ものを書くには、頭の中に書きたいテーマが浮かんでこなければなりません。テーマが浮かんでも、すぐには書き出さずに、頭の中でそのテーマを自分なりに推敲し、咀嚼して熟成させ、醗酵するのを待ちます。しかし馬齢を重ねると感激が薄れ、最近は特に書きたいものが浮かんでこなくなりました。年齢のせいだけでなく「アルチュー・ハイマー」のせいでしょう。

《対立から共生へ》

第10回日韓親善会議が今年の9月3-4日に韓国のソウルで開かれます。会議は2年ごとに両国で交互に開催されてきました。前々回、第7回日韓親善会議は2005年の9

月、ソウルで開催されました。日本、韓国、台湾からロータリーの指導者が集まり、21世紀の東アジアが目指すロータリーについて語り合いました。その底流にあるものは「対立から共生へ」の志向です。

デカルト以来、二つの異なるものを対立するものとしてとらえる、物心二元論を基盤に発展してきた西洋近代文明、その行き詰まりをどのように打破していくのか？東アジアには、2000年以上も共有してきた伝統的な資産があります。それらをもとに、今こそロータリーの世界にも新しい東アジア文明の存在を発信すべきではないかという、グローバルな見地からの提言がなされました。

二つの異なるものを対立するものとしてとらえるのではなく、「Aであり、また、Bでもある」として捉えるアジアの「じゃんけんの理論」のように、もっとしなやかな共生の論理こそが必要と提言されました。誰もが勝者となり得て、決定的な敗者を生まない社会。対立でなく共生、抗争でなく循環、排斥でなく融和というこうしたアジアの思想が、「裏か表か」というコイントスに象徴される西洋文明との対比で語られ、東アジアのこれからの在り方を、道教の視点からとらえたユニークな文明論は、参加した日韓のロータリアンに深い示唆を与えました。昨今のロータリーは、RIとロータリアンとの齟齬が大きくなったように見受けられます。理想的な組織とは、「全体は個を思い、個は全体を思う」組織です。RI主導の現代のロータリーは、財団支援、会員増強が最大の目的で、その目的達成のために、個々のロータリアンを強力なリーダーシップによる「力の論理」で管理しますが、「ジャンケン文明論」のようにもっとしなやかな共生の論理こそが必要だと感じます。

《我々はどこへ行くのか》

久しぶりに名古屋に行き、名古屋ボストン美術館に寄る機会を得、ゴーギャン展を見ることができました。文明社会に背を向け、「楽園」を求めてタヒチにわたり、魂の叫びを表現し続けた画家の作品に直に触れることができました。大勢の人物群像を深い宗教的思索で描いたゴーギャンの大作、『我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか』という題名の絵を前にして、強いインスピレーションに打たれました。たまたま名古屋へ行く数日前、ロータリー財団は金融危機のため、およそ220億円（全世界の年次寄付2年間分）の投資損失を計上、結果として財団プログラムの大幅な縮小を余儀なくされたというニュースを知りました。「古来金銭を求めて失敗した例は枚挙にいとまがないが、心を求めて失敗した例は寡聞にして聞かず」といわれます。ロータリーは本来、心を求める精神奉仕が本筋でした。しかし今や、人の金を集めて奉仕するという財団中心の金銭奉仕団体になってしまいました。しかし「倫理なき経済は罪悪 経済なき奉仕はたわごと」の言葉通り、ロータリー財団が破綻しては、金銭奉仕は難しくなっていました。

ゴーギャンの絵の題名のように、我々ロータリアンは「どこへ行く」のでしょうか。何を目標に活動したらいいのでしょうか。この命題を、我々は考えて、考えて、考え抜くことが大切です。瑣末的な金銭奉仕にとらわれずに、今一度我々に課せられたロータリーの「根本使命」を考えましょう。そのヒントとしてフランスの知の巨人、ジャック・アタリ氏の言葉をお伝えしてお別れとします。

『みんながボランティアで生きていける社会。お金を必要としない貢献主義社会です。自分が出来ることで社会貢献する。それだけで社会は機能します。今まで金儲けに知恵を出してきました。地位や名誉を得るために知恵を出してきました。その知恵やエネルギーを博愛と利他精神に変えて、超民主主義社会の実現に使って欲しいのです』

会長幹事の皆さん、月信担当の皆さん、一年間ありがとうございました。



第10グループ クラブ紹介

地区ガバナー補佐（第10グループ担当）

上野 一義
(七飯RC)

この一年間、研修期間を加えると、1年6ヶ月は、私にとりまして楽しい充実した時間となりました。ガバナー補佐の任務も皆様の協力のおかげで無事終了しましたし、ロータリーにつきましても少しは学ぶ事が出来ました。感謝しております。

担当クラブの紹介ですが、数回のクラブ訪問をしたとはいえ、状況を完全には把握し切れず、ましてや奉仕活動の現場に立ち会う事も出来ませんでしたので会長さんに、写真一枚と200字ほどの原稿を依頼しました。長文の原稿が多く、400字ほどにカットせざるを得ませんでした。意を尽くせぬ所があるかもしれませんが、御容赦下さい。では北から紹介します。

・長万部ロータリークラブ 会長 井上 正範

会員が9名となりましたが、RIのテーマ「夢をかたちに」を実現すべく、会員一丸となって取り組んできましたが、正直なところクラブの健全な運営を推進するには困難な状況にあります。その中でもクラブ創立40周年を昨年3月に迎えており、今年度は創立記念事業の実施を最重要事業に据えました。地区補助金の支給もあり、6月3日に役場庁舎前の公園に花時計の設置を完了いたしました。花時計は同日、長万部町に寄付し、長万部ロータリークラブの歴史と活動を町民に理解してもらうには絶好の機会となりました。今後は花が色濃くなるにつれ、優しく町民の心に時を刻むものとおもっております。

・森ロータリークラブ 会長 出町 英二

本年度創立45周年を迎え、会員相互の親睦と融和、会員の所属意識の向上を目指して、クラブの長年の夢であった「ロータリー旗」を記念事業として購入しました。機会あるごとに「ロータリー旗」を掲げロータリアンとしての誇りと自負を持って、森町内外の人々にクラブの認知の向上に寄与したいと思っております。強調と融和が生れる楽しい例会、家族を加えた例会、例会案内の携帯メール配信、結婚記念日の花束と会長からのメッセージカード贈呈など、家族の理解と協力を得る事により出席率の向上に努めました。

次年度より導入される「CLP」が円滑に機能するよう、例会で説明し、クラブ細則の改定と周知に努め、次年度年初より円滑なクラブ運営が出来るように致しました。

・七飯ロータリークラブ 会長 柴田 晴史

8月。北海道国際交流センター七飯支部が大学の夏休みに海外留学生を町内に2週間ホームステイさせています。この留学生や関係者20数名を招き「国際交流の集い」として交流を深めており今年18回目となりました。次は9月末に合行なう「観月会」です。10、11グループの会長、幹事を中心に多数の会員が集まります。長万部、森RCの会員の参加が多いのは3つのクラブの合同例会として始まったなごりです。今年23回目となり綱木地区職業奉仕委員長の卓話もあり、約60名のRC仲間で親睦を深めました。1月どんと焼きの日

社の境内で「チャリティカレンダー市」を行います。暮れに企業や家庭、会員から提供されたカレンダーを格安にて販売し益金は全額社会福祉協議会に寄付しております。今年は4回目となり年々利用者が増えております。



七飯RC「国際交流のつどい」

・函館亀田ロータリークラブ 会長 出戸 秀光

今年度より地区の目標の一つ、例会時に4つのテストを唱和するようにしました。例会場にしていたホテルの閉鎖に伴う例会場の変更を4月に行いました。会員の弔辞を読み上げるのもつらい事でした。

クラブの活動は7月の国際奉仕委員会、9月の社会奉仕委員会、4月の職業奉仕委員会等は継続事業でしたが、11月に新世代委員会により恵山小学校の5年・6年生を社会見学の一環として、新聞の出来るまでの過程の講義と工場見学、その後会員と交流しロータリークラブを知って貰いました。

最後に1名の純増に関しましては残念ながらトータルで3名の減になってしまいました。

・函館ロータリークラブ 会長 藤井 方雄

国際奉仕事業の一環として、鳴物界の人間国宝・堅田喜三久師匠他長唄、三味線、立方の第一人者5名をお招きしました。市内在住外国人留学生19名、一般参加者、当クラブ会員及び同夫人総勢99名が参加し日本の伝統芸術を鑑賞しました。喜三久師匠の太鼓による、波、風、雷、雪等の表現、芝居の呼び込み、撥ねたときの音、には日本の伝統楽器はかくも多様性を発揮し、日本人の繊細な感覚にマッチするものかと改めて驚かされました。三味線の組み立て方、弾き方を勝十郎師匠が軽妙なトークで説明し、時には笑いを誘いながら邦楽の世界に会場を引き込み、留学生に驚きと感動を与えました。最後は師匠全員で長唄「島の千歳」を演じられ日本の伝統芸術の神髄を披露されました。

多数行いました奉仕活動のうち、特に心に残ったものを紹介いたしました。

・函館セントラルロータリークラブ 会長 鍋谷 操子

本年度第一の成果は会員増強です。会員数24名でスタートし、6月5日現在31名です。7名の会員増強を致しました。次年度創立5周年を迎えるにあたり、若い会員の多い当クラブは会員間の信頼度も高く、非常にまとまりのあるクラブとなっています。社会奉仕活動の一端を紹介します。9月19日函館中央警察署前にて秋の交通安全運動を実施し、信号待ちのドライバーにシートベルトの着用と安全運転を呼びかけ、ティッシュ・エコバッグ等を配布しました。

10月30日五稜郭の北洋銀行支店・丸井今井の交差点で、函館でも近年被害が増加している振り込め詐欺の防犯運動をお年寄りや主婦の多い時間帯に実施しました。チラシ・防犯ベルを配布し注意を呼びかけました。

文末になりましたが、矢橋ガバナー、大金代表幹事、ガバナー補佐の皆さん、御指導ありがとうございました。担当クラブの会長・幹事さんお世話になりありがとうございました。

追記：今年度ほどガバナー月信を熱心に読んだことはありません。木訥な語り口のガバナーの巻頭言、難解ながら読み返す度に新しい発見のある塚原論文、気になるガバナー補佐レポート、裏話的な大金代表幹事の編集後記、読むのが楽しみでした。

第100回国際ロータリー年次大会参加記

地区オン・ツー・バーミンガム委員会

委員長 丸山 淳士

(札幌真駒内RC・PG)

2009年6月21日から24日まで、英国バーミンガムにおいて記念すべき第100回の年次大会が開催されました。2009年バーミンガム国際大会委員会の委員長は日本の田中作治氏でした。



今年初め頃から、メキシコに端を発した新型インフルエンザの影響で、各種の国際大会の開催が危惧される中、6月2日に当該委員会は開催を決定いたしました。その後3日にはWHOが新型インフルエンザのフェーズ6を宣言しましたが、これには各種国際大会などの開催禁止措置はつきませんでした。

当地区からは約50名の参加がありました。半数の25名は地区主催コースで年次大会並びに英国観光ツアーを楽しみました。日本人朝食会も例年通り賑やかに開催され、約2千名の参加がありました。席上、田中作治委員長から今回の日本からの参加者は「ブタにも負けず、トリにも負けない強力な参加者」とユーモアを交え、参加者にねぎらいの挨拶がありました。インフルエンザの影響で参加者が少ないという危惧がありましたが、例年に勝るとも劣らない数の参加者がありました。

北海道ナイトも50名の参加があり現地での親睦を深めました。特筆すべきは札幌西北ロータリークラブが1クラブとしては最多の17名のツアーを組んでの参加でした。雨の多い英国ですが、幸い大会日程中は天候に恵まれ、国際大会の盛り上がった雰囲気とすばらしい英国観光を楽しみました。

2009年バーミンガム国際大会北海道ナイト盛會に開催

6月21日、日本人親善朝食会を皮切りに、本大会、北海道ナイトと開催され、当日朝は小雨もありましたが、夕方より晴れ上がり白夜を楽しむ事もでき、今回の大会で参加の皆様が一堂に揃う北海道ナイトが、リゾートホテル・マリオットで盛會のうちに開催する事ができました。



会は、丸山オン・ツー・バーミンガム委員長歓迎挨拶に始まり、酒井直前ガバナーの乾杯でスタートとなり、50名余の参加メンバーはクラブの垣根を越えて一気に盛り上がりました。

参加ロータリークラブは、岩城パストガバナーの札幌南、熊澤ガバナーノミニーの小樽をはじめ、滝川、札幌東、札幌西、札幌真駒内、札幌西北、函館五稜郭、美唄、苫小牧北、千歳、当別、余市、札幌はまなす、と多くのクラブの参加をいただく事ができました。白夜の中で会は矢橋ガバナーのテーブルスピーチで始まり、約2時間にわたりクラブ・自己紹介などをはじめ「夢をかたち」の熱い思いが語られ、親睦を深める事ができ、思い出深い時間を過ごす事ができました。特に、札幌西北RCより小川会長を筆頭に17名の参加をいただき、会を盛り上げていただきました。参加者の中には、幼児を抱いた若いカップルも含まれ、伊藤年度シンガポール大会の時より始まった「北海道ナイト」の歴史を飾る一幕になりました。写真の満足そうな矢橋ガバナー、小川会長の笑顔をご覧ください。



最後に渡辺ガバナーエレクトの一本締めで終了し、2010年モンリオールの再会を約束し終宴となりました。

翌朝はお楽しみの湖水地方へのバス旅行、ペアールックがお似合いの佐藤パストガバナーご夫妻を始め、元気に出発した一行は6月27日、思い出の沢山つまったトランクと共に帰札いたしました。

(文責 札幌東RC：西村 勉・写真 奥貫一之)

第1グループ IM・深川RC創立50周年記念式典報告

ガバナー補佐（第1グループ担当） 大西 道祥
(深川RC)

2009年5月17日、深川（プラザホテル板倉）にて第1グループIM（都市連合会）を深川RC創立50周年記念式典と合わせて開催した。

当日は第1グループ全員登録、第2グループ、地区役員等170名以上の登録となった。IMのテーマ「クラブ活力の再生～手に手、四つのテストで奉仕の連携を～」の主旨説明を私が挨拶の中で述べ、杉村 修IM実行委員長、澁谷賢治会長の歓迎の挨拶の後、矢橋ガバナーよりセレモニーの中に四つのテストの唱和を入れた事にお褒めの言葉があり、丸山淳士パストガバナーがいかに第2510地区を代表するロータリアンであるかの紹介がありました。

基調講演は丸山淳士パストガバナーが「クラブ活力の再生の道」と題して、ピーター F. ドラッカーの言葉を引用しながら、ユーモア溢れる相変わらずの丸山節で会員に深い感銘を与えました。その中でもリーダーの心得4箇条、①人の言うことを聞く意欲、能力、姿勢、②コミュニケーションの意欲、③言い訳をしない、④仕事の重要性に比べて自分など取るに足りない事を認識すること、が強く印象に残りました。素晴らしい講演であり、道標を示して下さい丸山淳士パストガバナーに心より感謝申し上げます。

「クラブ会長ディスカッション」では、プロのパーソナリティーである澁谷深川RC会長が司会者となり、各クラブ会長の本音を引き出すべく、実に上手に進行された。

「貴クラブ会員のこの1年間の満足度は100点満点の何点？」という質問に個性豊かな会長さん達が異口同音に100点以上の点数を出し、会長は各会員に支えられながら成り立っている事に感謝しているとの発言にさすがと思いました。

「女性会員について」の質問にはフロアーより2名の女性会員の発言もあり和やかな雰囲気の中でのディスカッションとなりましたが、45分という短い時間しか取れなかったのが少し残念でした。

「奉仕の半世紀、連帯感の高揚と資質の向上を」のもと、創立50周年記念式典は姉妹クラブである韓国南海RCより金玆杓会長をはじめ8名の会員の来訪があり国際色豊かな式典となりました。中澤 清実行委員長の式辞で始まり、42年間皆出席の佐々木實パスト会長が特別表彰を受け、お礼の挨拶は万感胸に迫るものがありました。記念事業は深川市に自動体外式除細動器（AED）5台を贈呈致しました。

IM交流会と記念祝賀会を合同で開催し充分な懇親を深めてもらうため、催し物は一切出さず楽しい会となった事を付け加え報告と致します。



式辞を述べる中澤清実行委員長



「会長ディスカッション」の様子

羽幌ロータリークラブ 創立30周年記念式典・祝賀会

羽幌RC（忠津 章会長）の創立30周年記念式典が5月30日、羽幌町中央公民館で開かれ、豊かな社会づくりへの決意を新たにしました。

羽幌ロータリークラブは、昭和54年5月16日、留萌ロータリークラブがスポンサーとなり小平ロータリークラブがコ・スポンサーとして創立され、同6月6日国際ロータリー第2510地区、56番目のクラブとして認証を受けました。

ロータリークラブ杯全道少年少女サッカー大会、少年野球大会など青少年の健全育成、知的障がい者の会への活動支援、献血運動、交通安全旗の贈呈・セーフティーコール参加、タイの研究グループの受け入れ、羽幌に元々あった自然を呼び戻すビオトープ造成支援など、さまざまな地域活動を繰り広げております。

創立30周年式典のスローガンは、「夢、めぐりあい、広げる奉仕、継がれる輪」

点鐘で始まった式典には、忠津 章会長が歓迎の挨拶、来賓、来訪のロータリアンを紹介したあと、實藤吉信実行委員長が「年度ごとの奉仕活動を積み重ね、30年の年月を経てまいりましたが、会員一同心を新たにし、ロータリーの基本理念を継承、次なる世代へのかけ橋となるべく、住み良い町、豊かな社会づくりに邁進することを誓います」と式辞を述べました。

松橋 守記念事業委員長より事業報告があり、初山別村にAED1台、羽幌町にAED2台寄贈するほか、羽幌町には、災害時などにおける緊急避難場所を示す案内標識を寄贈、離島3カ所を含む羽幌町内の指定場所15カ所に設置された旨説明があり、實藤実行委員長から羽幌町長、初山村村長へ記念品の贈呈がありました。

次にスポンサークラブ、コ・スポンサークラブ、ガバナー補佐、チャーターメンバーに感謝状と記念品が贈呈され、歴代会長、幹事に表彰状と記念品が贈呈された。

来賓祝辞では、羽幌町町長 舟橋泰博様、RI2510地区ガバナー 矢橋温郎様、留萌RC会長 齋藤清蔵様から祝辞が述べられました。

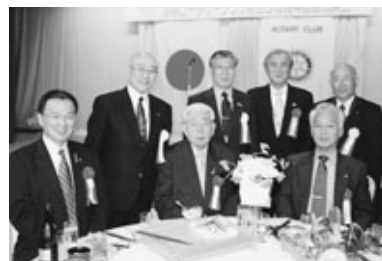
またUHBキャスター京谷和央氏の記念講演「泳いだ、こいだ、走った、伝えた、オロロンライン、北海道の元気力」に耳を傾けていました。講演後、会場をサンセットプラザはぼるに移動して祝賀会が開催され、忠津会長の歓迎の言葉、小平RCの会長代理籠川健次様の乾杯の音頭で祝宴に入りました。

アトラクションとして、羽幌町民吹奏楽団、PowerDVD（羽幌RC30年の流れ）が上映され会場は、楽しい雰囲気になりました。締め音頭は、工藤喜一会長エレクトの三本締めが行われ、最後に出席者全員輪になり、「手に手つないで」を合唱してお開きとなりました。

ガバナー初め遠くから出席いただいた皆様大変ご苦労様でした。



實藤実行委員長の式辞



ガバナーを囲んで



**マッチング・グラント #66571
「チェンマイでのチェックダム群と貯水槽建設事業」が全て完了しました**

地区世界社会奉仕委員会
委員長 **出村知佳子**
(札幌北RC)

当地区では昨年度末より、この「チェンマイでのチェックダム群と貯水槽建設事業」に取り組んで参りましたが、この度事業が全て完了し、報告書もロータリー財団本部に受理され、この事業がファイルに閉じられましたので、ここに御報告を申し上げます。



この事業は2008年3月に申請、同5月にこれが承認され開始となりました。それから約1年間、第3360地区ロータリアンの皆さん、ランナチェンマイロータリークラブの皆さん、地元チェンマイ大学の皆さん、地元の村人の方達、アーミースクールの皆さん、色々な方達がこの作業に参加をし、見事に86のチェックダム群と、集落や近辺の皆さんが利用する150m³の貯水槽が出来上がりました。

マッチング・グラントに私達支援地区として共に汗を流そうということで、2009年2月には地区WCS委員を中心とした8名のメンバーがこのチェックダム工事に参加をし、チェックダム建設を実施してまいりました。

30度以上の気温の中での作業は重労働で、思っていた以上に苦労があるというのを強く感じて帰ってきました。その際の引き渡し式にはBaan Mon doi pui村の皆さん、チェンマイ県知事も参加され、ロータリーの皆さんの愛によって造られたダムと貯水槽をこれからも大切に管理して守って行きますとの言葉を頂き、私共も深い感銘を受けました。第2510地区としても暫くぶりに行われたマッチング・グラントでした。これに至るまでの数年間、この事業を単独で数年間地区内のクラブの皆様が御支援をしてくださり、この事業の有効性、相手地区のきちんとした取り組みを観てきて、私共も数回に渡りこの事業の現場を訪れ、多くの死亡者も出しているこのチェンマイでの雨季の大洪水の問題、それを解決するチェックダムの大切さ、さらにこの事業が生きる為の水の確保にも繋がっていく事業であることを理解して行き、交流も深まり、これがこのマッチング・グラントへと成長するに至りました。このマッチング・グラントの当地区委員3名より、この事業が完了し、地域にて大変意義あるものとなり、報告書の受理、承認がされたので、事業完了し委員会を解散し、この事業はロータリー財団本部ファイルに閉じられました。

これまで事業に御支援を頂いた、札幌東、千歳セントラル、室蘭東、室蘭北、札幌西北、余市、深川、静内各クラブの皆様、建設工事に参加したメンバー8名、チェンマイのすばらしい事業をしている仲間のロータリアンの皆さん、そして事業に御理解を頂きました酒井正人直前ガバナー、矢橋温郎ガバナー、岩城秀晴地区財団委員長、朝倉前地区補助金委員長、須田地区補助金委員長、事業への御協力を本当にありがとうございました。



国際奉仕委員会ニュース

第19回日本ロータリー親睦ゴルフ (JGFR) 北海道大会が2009年6月22日 (月) ザ・ノースカントリーゴルフクラブにて全国のロータリアンとご家族、70名が参加され開催されました。あいにくの雨のため、9ホールの大大会となりましたが、プレー終了後、懇親会 (表彰式) が行われ、おおいに親睦を深めました。



ガバナー補佐



優勝者



高塚氏

	A 部門			B 部門		
	氏名	所属クラブ	NET	氏名	所属クラブ	NET
1位	大越 克己	札幌西	71.8	向田 甚市	岩見沢	71.6
2位	谷口 智治	東京世田谷	72.4	公文 重徳	高知南	71.8
3位	舟津 富雄	鳩ヶ谷武南	72.4	畑地 誠	田辺東	72.4
4位	内田 賢治	鎌倉大船	73.0	堀 楷一	総社	72.8
5位	丸山 博之	田辺東	73.4	大塚 哲夫	豊田中	73.2
BG賞	谷口 智治	東京世田谷	G 40	大塚 哲夫	豊田中	G 42

	C 部門 (女性)			ゲスト部門	
	氏名	所属クラブ	NET	氏名	NET
1位	末永 京子	大垣中	73.2	根ヶ山佳延	73.4
2位	磯賀 穂子	宇都宮西	73.8	末永 義典	73.6
3位	松崎 範子	高知南	74.8	州崎 昭圭	74.8
4位	嶋田 順子	広島安芸	76.2		
5位	大塚多恵子	豊田中	77.2		
BG賞	嶋田 順子	広島安芸	G 51	山口 和雄	G 46

※ベストペアー賞 1位 末永勝昭 末永京子 (大垣中)

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

■マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

芦別 R C	櫻井 祝	会員(1回)	5月15日
赤平 R C	赤川 清介	会員(1回)	6月5日
	西沢 良知	会員(1回)	6月5日
当別 R C	近藤 勝宏	会員(1回)	6月26日
	泉亭 祐司	会員(1回)	6月26日
札幌あけぼのRC	安澤 正美	会員(2回)	6月12日
	秋野 公孝	会員(1回)	6月30日
札幌幌南RC	山下 信行	会員(1回)	6月26日
	深貝 亨	会員(1回)	6月26日
苫小牧北RC	田辺 信夫	会員(1回)	6月30日
	菊地 芳彦	会員(2回)	6月30日

■ポール・ハリス・フェロー

赤平 R C	佐藤 元紀	会員	6月5日
札幌幌南RC	佐々木雅之	会員	6月30日
札幌西北RC	谷口恵美子	会員	6月30日
滝川 R C	宮崎 英彰	会員	6月19日
当別 R C	浅野 政一	会員	6月26日
	見上喜久雄	会員	6月26日
	永上 巖	会員	6月26日
苫小牧北RC	朝倉 瑞昌	会員	6月30日

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

■米山功労者

岩見沢 R C	青木 司	会員(4回)	5月8日
札幌清田RC	阿部 哲夫	会員(2回)	5月20日
札幌清田RC	小仲美智子	会員(1回)	5月20日
苫小牧北RC	朝倉 瑞昌	会員(1回)	5月27日
苫小牧北RC	広島 薫	会員(1回)	5月27日
江別 R C	郷 和平	会員(2回)	6月8日
滝川 R C	藤井 照也	会員(1回)	6月15日
札幌あけぼのRC	安澤 正美	会員(4回)	6月9日
	秋野 公孝	会員(1回)	6月30日
札幌モーニングRC	藤森 敏昭	会員(4回)	6月11日
	平田 博史	会員(4回)	6月11日
	梅津 征夫	会員(4回)	6月11日
札幌西北RC	谷口 二郎	会員(36回)	6月19日
	出口 修	会員(1回)	6月19日
札幌幌南RC	近藤 浩	会員(4回)	6月22日
	羽部 大仁	会員(5回)	6月29日
	松根壽史男	会員(1回)	6月29日

長沼 R C	清水 慧子	会員(4回)	6月2日
静内 R C	在田 恒昌	会員(1回)	6月5日
浦河 R C	大針 道生	会員(1回)	6月3日
	富田 輝次	会員(1回)	6月10日
函館五稜郭RC	蝦名 康夫	会員(1回)	6月29日
	大日向豊吉	会員(3回)	6月29日
	當摩 浩平	会員(3回)	6月29日
函館東 R C	森元 浩	会員(7回)	6月2日
	宮崎あけみ	会員(2回)	6月9日

■米山功労クラブ

札幌清田RC	3回	5月20日
札幌モーニングRC	14回	6月11日
札幌西北RC	14回	6月19日
札幌幌南RC	17回	6月22日
長沼 R C	3回	6月2日

出席率・会員数

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2008.7.1	2009.5.31	増減	内女性	
1	深 川	3	36	34	-2	3	94.76
	羽 幌	4	48	48	0	1	87.67
	妹 背 牛	3	9	9	0	0	88.89
	小 平	4	14	13	-1	0	75.00
	留 萌	4	45	43	-2	0	86.88
	小 計		152	147	-5	4	86.64
2	赤 平	3	29	29	0	1	87.00
	芦 別	4	44	37	-7	0	88.51
	砂 川	3	52	56	4	0	98.17
	滝 川	4	99	100	1	2	79.00
	小 計		224	222	-2	3	88.17
3	美 唄	4	38	34	-4	0	87.00
	江 別	3	34	33	-1	1	89.90
	江 別 西	3	27	31	4	3	83.86
	岩 見 沢	4	87	88	1	0	90.41
	岩 見 沢 東	3	34	33	-1	4	89.23
	栗 沢	3	23	24	1	1	87.30
	栗 山	3	26	27	1	2	97.33
	当 別	3	34	33	-1	0	81.82
	小 計		303	303	0	11	88.36
4	札 幌	3	117	114	-3	0	96.77
	札幌あけぼの	4	18	16	-2	1	100.00
	札幌はまなす	3	25	19	-6	4	87.72
	札 幌 北	2	43	43	0	6	95.24
	札幌モーニング	3	49	52	3	0	74.68
	札 幌 西	3	62	63	1	4	89.67
	札 幌 西 北	4	39	39	0	5	96.74
	札 幌 手 稻	4	34	34	0	1	94.89
	小 計		387	380	-7	21	91.96
5	札 幌 東	3	120	122	2	0	97.07
	札 幌 清 田	3	18	18	0	4	100.00
	札 幌 幌 南	5	65	65	0	0	100.00
	札 幌 真 駒 内	3	35	37	2	4	94.57
	札 幌 南	3	92	86	-6	0	95.83
	札幌大通公園	3	9	12	3	4	80.50
	札幌セントラル	3	14	13	-1	6	65.38
	新 札 幌	3	32	29	-3	2	93.22
	小 計		385	382	-3	20	90.82
6	岩 内	3	21	19	-2	0	94.63
	俱 知 安	3	46	43	-3	4	47.00
	小 樽	3	69	67	-2	0	88.02
	小 樽 南	4	73	73	0	0	88.13
	小 樽 銭 函	4	21	22	1	2	72.00
	蘭 越	3	11	11	0	0	75.75
	余 市	3	39	41	2	4	83.00
	小 計		280	276	-4	10	78.36

5月出席率・会員増減数

クラブ数	73クラブ
期首会員数	2,816人
当月末会員数(女性)	2,808人 (105人)
増加会員数	- 8人
当月平均出席率	86.16%

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2008.7.1	2009.5.31	増減	内女性	
7	千 歳	4	63	63	0	3	77.40
	千歳セントラル	3	35	38	3	2	73.10
	恵 庭	3	39	37	-2	0	84.76
	北 広 島	3	17	17	0	0	88.23
	長 沼	3	20	20	0	3	83.00
	由 仁	4	10	10	0	1	77.50
	小 計		184	185	1	9	80.67
8	え り も	4	22	23	1	0	80.43
	三 石	3	15	15	0	1	97.78
	様 似	3	23	23	0	1	93.10
	静 内	3	72	72	0	1	80.29
	浦 河	3	34	34	0	2	99.02
	小 計		166	167	1	5	90.12
	9	伊 達	3	53	56	3	0
室 蘭		4	43	44	1	0	93.60
室 蘭 東		3	41	37	-4	0	89.90
室 蘭 北		3	34	38	4	3	100.00
登 別		3	31	33	2	2	84.85
洞 爺 湖		4	9	8	-1	0	84.00
小 計			211	216	5	5	87.59
10	函 館	4	87	86	-1	0	77.68
	函 館 亀 田	3	45	42	-3	2	94.17
	森	4	34	35	1	0	82.90
	七 飯	4	16	17	1	0	79.40
	長 万 部	3	10	9	-1	0	88.30
	函館セントラル	3	24	30	6	1	66.61
	小 計		216	219	3	3	81.51
11	江 差	3	19	18	-1	2	75.00
	函 館 五 稜 郭	4	55	55	0	0	100.00
	函 館 東	3	45	46	1	4	83.19
	函 館 北	3	30	30	0	0	86.67
	北 斗	4	19	18	-1	2	66.70
	松 前	3	5	5	0	0	80.00
	小 計		173	172	-1	8	81.93
12	白 老	3	26	29	3	0	80.20
	苫 小 牧	4	50	49	-1	2	77.51
	苫 小 牧 東	4	25	27	2	2	88.89
	苫 小 牧 北	3	34	34	0	2	98.96
	小 計		135	139	4	6	86.39
合 計		2,816	2,808	-8	105	86.16	

出席率・会員数

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2008.7.1	2009.6.30	増減	内女性	
1	深 川	4	36	32	-4	2	87.90
	羽 幌	4	48	45	-3	1	86.95
	妹 背 牛	4	9	9	0	0	94.40
	小 平	3	14	10	-4	0	71.79
	留 萌	3	45	41	-4	0	85.52
	小 計		152	137	-15	3	85.31
2	赤 平	4	29	28	-1	1	86.75
	芦 別	4	44	36	-8	0	86.49
	砂 川	3	52	55	3	0	98.14
	滝 川	2	99	100	1	2	76.00
	小 計		224	219	-5	3	86.85
3	美 唄	4	38	33	-5	0	88.39
	江 別	4	34	34	0	1	94.07
	江 別 西	5	27	30	3	3	85.15
	岩 見 沢	4	87	85	-2	0	93.22
	岩 見 沢 東	4	34	33	-1	4	87.13
	栗 沢	4	23	24	1	1	96.60
	栗 山	5	26	27	1	2	99.13
	当 別	5	34	31	-3	0	80.25
	小 計		303	297	-6	11	90.49
	4	札 幌	4	117	102	-15	0
札幌あけぼの		4	18	13	-5	1	100.00
札幌はまなす		5	25	18	-7	4	90.23
札 幌 北		4	43	43	0	5	96.47
札幌モーニング		4	49	52	3	0	76.40
札 幌 西		4	62	60	-2	4	90.29
札 幌 西 北		4	39	39	0	5	96.79
札 幌 手 稲		4	34	33	-1	1	94.85
小 計			387	360	-27	20	92.79
5	札 幌 東	3	120	118	-2	0	97.69
	札 幌 清 田	5	18	18	0	4	100.00
	札 幌 幌 南	4	65	62	-3	0	100.00
	札幌真駒内	4	35	37	2	4	93.79
	札 幌 南	5	92	80	-12	0	96.92
	札幌大通公園	5	9	12	3	4	91.60
	札幌セントラル	5	14	13	-1	6	52.56
	新 札 幌	4	32	28	-4	2	90.66
小 計		385	368	-17	20	90.40	
6	岩 内	4	21	19	-2	0	71.05
	倶 知 安	4	46	40	-6	4	62.50
	小 樽	5	69	65	-4	0	86.23
	小 樽 南	4	73	76	3	1	94.41
	小 樽 銭 函	4	21	22	1	2	75.00
	蘭 越	5	11	11	0	0	65.45
	余 市	4	39	41	2	4	82.50
	小 計		280	274	-6	11	76.73

6月出席率・会員増減数

クラブ数	73クラブ
期首会員数	2,816人
当月末会員数(女性)	2,723 (103人)
増加会員数	-93人
当月平均出席率	85.50%

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2008.7.1	2009.6.30	増減	内女性	
7	千 歳	4	63	57	-6	3	77.00
	千歳セントラル	4	35	37	2	2	83.40
	恵 庭	4	39	35	-4	0	81.43
	北 広 島	4	17	15	-2	0	92.67
	長 沼	5	20	20	0	3	86.00
	由 仁	4	10	11	1	1	92.50
	小 計		184	175	-9	9	85.50
8	え り も	4	22	21	-1	0	80.43
	三 石	5	15	15	0	1	97.33
	様 似	5	23	24	1	1	93.70
	静 内	4	72	71	-1	1	82.28
	浦 河	5	34	33	-1	2	96.36
	小 計		166	164	-2	5	90.02
	9	伊 達	5	53	55	2	0
室 蘭		4	43	44	1	0	76.75
室 蘭 東		4	41	37	-4	0	94.60
室 蘭 北		5	34	38	4	3	100.00
登 別		4	31	33	2	2	81.82
洞 爺 湖		4	9	8	-1	0	84.00
小 計			211	215	4	5	84.98
10	函 館	4	87	83	-4	0	77.31
	函 館 亀 田	5	45	42	-3	2	95.00
	森	4	34	34	0	0	75.70
	七 飯	4	16	17	1	0	86.70
	長 万 部	4	10	9	-1	0	83.27
	函館セントラル	5	24	31	7	1	60.65
	小 計		216	216	0	3	79.77
11	江 差	5	19	18	-1	2	72.20
	函館五稜郭	4	55	55	0	0	99.09
	函 館 東	4	45	43	-2	4	77.55
	函 館 北	4	30	28	-2	0	89.17
	北 斗	4	19	17	-2	1	65.30
	松 前	2	5	5	0	0	30.00
	小 計		173	166	-7	7	72.22
12	白 老	5	26	28	2	0	78.50
	苫 小 牧	4	50	48	-2	2	86.09
	苫 小 牧 東	4	25	27	2	2	96.29
	苫 小 牧 北	4	34	29	-5	2	95.31
	小 計		135	132	-3	6	89.05
合 計		2,816	2,723	-93	103	85.50	

編集後記

漸くにして6月30日を以って矢橋年度は終了し渡邊年度へ移行した。私は今、地区幹事としての業務を終え、残された仕事としての地区要覧の制作と会計決算の作業に入る事となった。思い返せば、矢橋氏が地区ガバナー指名委員会より指名を受けて以来3年に及ぶ長いようで短い航海であった。様々なクラブを尋ね、様々な人々に会い、様々な経験をした。オーバーな言い方をお許し願えれば大変な人生勉強をさせて戴いたという事になるわけである。

そして、改めて一体ロータリーとは何か。それぞれの会員のロータリーに寄せる思いとはそれぞれどんな事なのか、我々は今後ロータリーとどう向き合っていくのか、本当に色々と考えさせられる事が多い。

地区幹事の業務はこれでひとまず終了するわけだが、一年を通じ各地の多くのロータリアンの皆様には、お世話になったお礼を重ねて申し上げたい。しかし、今後共、ロータリーの構成員である事に変わりはない。ロータリーの将来に対するぼんやりした不安といくらかの感傷を覚えながら一年間の編集子としての役割を終える次第。お付き合いに感謝

地区代表幹事 大金 武夫 札幌西RC

早いもので、あっという間の1年であった。さてもロータリーの地区組織は巨大なものである。ガバナー補佐や地区委員とは異なり、手続要覧で細かく規程されている役職ではなく、地区幹事は単なるガバナー事務所のスタッフにすぎない。責任が軽いといえば語弊があるが、本来は外に向かってガバナーの代弁や代理の役割はない。無言、無行で通す事も重要な仕事であると信ずる。黒子に徹することが出来たであろうか？分を過ぎた振る舞いがあったとすれば本意ではなくお許し願いたい。唯一意見を発するとしたらそれはガバナーに向かってであろう。なんとすれば、地区幹事はガバナー自身から指名され、職務としてではなく、友人として語りかけることができる少数のロータリアンだからである。矢橋年度は僅か4名の地区幹事で事務所を預かった。少数が故に、ガバナーとの意志疎通はスムーズであった。しかし、私を除いた3人の仕事量は大変なもので頭の下がる思いであった。何といっても、地区幹事の一番の役得は、多くのロータリアンと知り合った事に尽きる。以前地区委員で苦楽をともにした仲間とは、今でも3人会と称して3組の夫婦で年一回の温泉旅行を楽しんでいる。一方で、地区やクラブの先送りされてきた問題も自然と見えてくる。この様なご時世、色々な組織のあり方が問われている。ロータリーもしかし。またクラブに戻り、その経験に生かせればと思う。

地区幹事 上出 利光 札幌西RC

地区幹事として月信の編集に携わり1年間本当にいろいろと勉強させて頂いた。その間、地区大会という一大イベントの運営にも参画し、また会長エレクトとしてPETSや地区協議会に参加させて頂き、当地区の活動の主なところを学ぶことが出来たことは幸運であったと言う他ない。また、地区内の多くのロータリアンの方々と知故を得たことも大きな収穫であり、素晴らしい和の広がり心弾むものがある。

しかしながらこの間、個人的にロータリー活動に割いた時間は想像を超えるものであり、今後はクラブ会長としてじっくりとロータリー活動を考えて見たいと思うこの頃である。

ロータリー活動の中心を成す奉仕の精神に関して、他者に対する奉仕を考えた場合、自己の能力と責任を痛感するが、職業業務における緊張感と何ら変わらないということも実感させられ、日々自己研鑽の必要性を身に沁みて感じさせられている。

また、様々な人間模様の中に織り出される奉仕と友情の絆がロータリーとしての宝であることを信じて、これからも活動を続けて行けることを念じている。

地区幹事 石丸 修太郎 札幌西RC

矢橋ガバナーより地区幹事を指名され、早20ヶ月が経過して今回のガバナー月信 No.13で完了を迎える。

ガバナーより指名された時、自分の役割を考えた。第2510地区の全会員にガバナーの意思を最適に伝達するのは、ガバナー月信である。第2510地区の多くの会員に月信を読んで戴くことが最大の目標であった。

月信の内容の充実と共に月信の顔である表紙をどうするか、過去の月信もいくつか参考にさせてもらった。一年間の顔は、殆ど統一されていた。何か変わった顔が出来ないか、矢橋ガバナー月信の顔を何にするかと考え抜いた末にガバナーが旅行好きで世界中、自然を求めて旅をしていることにヒントを得た。

今年度のガバナー月信は、北海道第2510地区の四季の自然を追いかけ、顔にすることを決断した。この一年、北海道の移り行く季節感を月信を通じて感じられたらと。

第2510地区会員がどの位購読して頂いたか判断は出来ないが、過去にない月信の顔と自負している。この影には、口うるさい注文の中、表紙の写真の撮影に協力して戴いた札幌西RC 田宮会員、村上会員、函館五稜郭RCの蛭名会員には、感謝に絶えない気持ちで一杯である。

又、第2510地区会員の方々の中で写真の提供をして戴きながら採用出来なかった会員に対しお詫びを申し上げ、矢橋ガバナーの月信に掛けた思いを伝えて、月信とお付き合い戴いた会員に感謝する次第である。

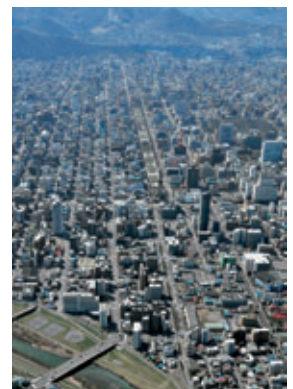
地区幹事 武田 智 札幌西RC

ガバナー事務所

〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F TEL (011) 207-2510 FAX (011) 207-2512
E-mail: rid2510@nifty.com 執務時間: 10:00~17:00(土・日・祝祭日休み)



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510
2008～2009
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



表紙：未来へ向かって札幌
撮影：矢橋温郎